



梅 光

題字は初代院長 広津藤吉先生

第 49 号

2017年(平成29年)6月28日発行

梅光学院同窓会

〒750-8511 下関市向洋町1-1-1

TEL/FAX 083-227-1111

編集発行人 片山 宣子

同窓会 E-mail jimukyoku@baiko-dousoukai.jp

<http://baiko-dousoukai.jp/>

印刷 (株) 三和印刷社

〒752-0927 下関市長府扇町9-1



2016年12月 クリスマス礼拝「ハレルヤコーラス」
2017年より男女混声になります。



卒業証書授与



2017年3月1日「梅光女学院」最後の卒業生



「みことば」

〈29〉

三輪 従道

(前下関教会牧師)

「キリスト教主義学校の危機」

ミッションスクールの世俗化が叫ばれてから随分時間が経ちました。学校経営の現実の厳しさの中で、信仰が次第に建前になってゆく問題です。

旧約聖書の中に「ヨブ記」という書があり梅光で学ばれた方なら誰でもご存知だろうと思います。文豪ビクトル・ユーゴーをして「世界最大の文学」と言わしめた書です。

そのヨブ記の主人公ヨブは、信仰の人で、神に従う事に於て忠実な人でした。そこに悪魔が登場して神と対談して言いました。「人間は、いつも自分しか求めず、打算的な存在だから、ヨブとていたずらに神様を礼拝するものですか、何かメリットがあるから礼拝するのではないですか。現に神様あなたは、彼の全てを祝福し守っておられるではありませんか。もし今、ヨブが豊かに享受しているものを奪い取ってごらん下さい。ヨブとて必ず神様を呪うに違いありません。」そこで神は、悪魔の手にヨブを委ねてその信仰を試されました。



こうしてヨブは、たて続けに全財産と十人の子供たちを失ってしまうのです。おまけに彼は、頭のとっぺんから足の裏までひどい皮膚病にかかり、灰の中に座り素焼のかけらで体中をかきむしったと言います。そして長年連れ添った妻からも「いつまで信仰に固執しているのですか、さっさと神を

呪って死になさい」

と言われてしまうのです。こうした中でヨブが口にした言葉は、「私は裸で母の胎を出た。裸でそこに帰ろう。

主は与え、主は取り給う。主の御名はほめたたえられよ」「私たちは、神様から幸いをいただいたのだから、不幸もただこうではないか」というものでした。

ヨブ記は、その壮大なドラマを通して何をテーマにしているのでしょうか。世の不条理即ち、何故正しい人が苦しみ、不正な人が世にはびこるのか、正しい人の苦悩には何か意味があるのか、等々様々な角度から読む事が出来ると思いますが、最大のテーマは、何故神を礼拝するのか、それは、神が神であるからという事に尽きると思います。教会に行ったり洗礼を受けたりするのは、進学の推薦や就職に有利だから、奨学金を受けたり内申の評価を良くするためではないのです。

主イエスも大胆に約束しておられます。「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすればこれらの事(何を食べようか、何を着ようかという日常の事)は加えて与えられる」(マタイ6・33)と。

他宗教を軽々しく御利益宗教と言って批判する前にキリスト者自身の中にある一も二もなく自分を求め、自分に栄光を帰そうとするものがないか厳しく問うべきではないでしょうか。





会長挨拶

片 山 宣 子



梅雨入りの前から夏日になる不順な天候から、いよいよ本格的な暑さを迎えますが、同窓の皆様にはお元気にお過ごしでしょうか？

この度総会で会長職を継続することになりました。宜しくお願いいたします。梅光同窓会は100年の歴史があります。会員の親睦交流と学院支援が同窓会の目的の2本の柱になっております。しかし、全国に暮らす同窓生の交流やその情報が共有されているというには十分とは言えません。会誌により情報発信しておりますが、本部事務局が把握していない交流も多いことだと

思います。大学卒業生が一人になるのも近い将来です。各地で同窓生が語り合えれば懐かしくまた大きな力を得ることになると考えます。ホームページの立ち上げ・新会員名簿の発行(平成30年5月発行予定)が会誌と共に情報発信と共有に役立つことを願っています。事務局へのお知らせはホームページでも気軽にできます。相互に発信して輪が広がると思います。さまざまな交流の集いの情報を寄せて下さるよう、宜しくご協力ください。

今回の総会では教育支援寄付規定が明文化されご承認をいただきました。また、会則の変更も承認されました。総会報告を掲載していますので参考にしてください。

大学は開学50年の式典を6月3日に挙行了しました。新学院院长の樋口先生の責任の下、世界を視野に入れた大学へと飛躍する目標が語られました。中高も鳥田清新校長の下、挑戦が続いています。同窓会としては、梅光の、人格に働きかける良き教育や高い教育水準の達成を強く願っているこ

とを伝え続けます。

今年は会誌にも変化があります。「みことば」は、皆さんが生徒・学生時代に足を運んだ市内の教会の牧師先生にも語っていただくことにいたしました。隔年ごとに学院宗教主任にも引き続いてお願いする予定です。教職員の退任・就任、各キャンパスの便りなどは学院発行の「学報」に掲載されることになりました。この「学報」は卒業生全員にも送付されることになっています。同窓会誌は、長い間学

院の広報誌・記録の役割を果たしてきたと自負しておりますが、「学報」が発行継続される役割を果たすことを期待する次第です。

会誌に同期や知り合いの同窓生の記事をお送りください。同窓生が楽しめる記事を増やしたいと思います。

事務局の仕事は多岐に亘り、なかなか理想通りにはゆきません。皆様のご協力とお支えをお願いして挨拶といたします。

事務局稼働日

毎週、火曜日・金曜日の13時～16時
(臨時の休みはホームページにてお知らせします)

梅光学院同窓会

〒750-8511

下関市向洋町1丁目1番1号

TEL・FAX 083-227-1111

E-mail jimukyoku@baiko-dousoukai.jp

kaichou@baiko-dousoukai.jp

http://baiko-dousoukai.jp/

振替口座 下関 13100 番

二〇一七年(平成29年)度役員	
顧問	浜谷 静枝(高10)
会長	片山 宣子(高19、大1)
副会長	磯谷 由美(高25、大英7)
書記	岩男 晶子(高32)
会計	香月 順子(大英7)
庶務	安成百合子(高20)
〃	北村由美子(高33)
〃	島中 節子(高18、短日2)

みことば(29)	三輪 従道…… 2	卒業生はいま
会長挨拶	片山 宣子…… 3	筒井 亮介・岩倉万希子 …… 12
学院・学長挨拶	樋口 紀子…… 4	コール梅光 15周年記念コンサート …… 14
退任の挨拶	中野 新治…… 5	支部だより …… 15
第16回メモリアルデー		同期会だより …… 16
岡田喜久男・片山宣子 …… 6		2017年度総会報告 …… 17
逝去者名 …… 8		同窓会入会式あいさつ …… 21
滝本哲也先生を偲んで		下関開学100年記念事業お礼及び報告 24
中川 泰子…… 9		2018年度総会おしらせ …… 27
恩師はいま		木暮実千代生誕百年記念
力丸 晃・宮野 光男・小田 豊… 10		「オトン」上演について …… 28



「未来を生き抜く力」を育む

梅光学院学院長・大学学長 樋口 紀子



今年度から中野新治先生の後任として学院長をお引き受けすることになりました。これからは幼稚園、中高、大学、大学院と学院全てに対して責任を担うことになります。また、大学の学長も兼任致しますので、授業も他の先生にお願いし、学院長としての責務に支障がないよう全力を尽くす所存です。まず、学院長として今後大切にしたいことは、学院全体を「建学の精神」に立ち返らせることです。梅光学院の今までを振り返ると、学院は世紀の変わり目に変えたい。大きな試練を経験したと言えます。二十世紀のバブル期に

は大勢来てくれていた学生や生徒たちが、急激に減少していったからです。それは地域の他の学校と比べても大変な減り方でした。バブル期に蓄えた自己資金も底をつき、校舎等の建て替えのために取り分けておくべき減価償却のお金は何十億円という単位で足りない状況が、五年前、私が学長に就任した時の梅光の真の姿でした。第三者的に見れば「梅光はとうに破綻」していたと言えるでしょう。このような梅光に必要なことは「建学の精神に基づいた、真の変革」です。それは一四六年前に創設者スタウト先生ご夫妻が長崎で始められた当時のこの学校が一番大切にしていたこと、すなわち「キリスト教の伝道」です。イエス・キリストによる救いを一人でも多くの人に伝えることです。なぜなら、聖書が伝えるイエス・キリストによる救いは、人に

生き方の変革を求めます。今までの梅光はこの意識が弱かったのではないかと思います。ですから、私が学長に就任以来、この「建学の精神」を大切にしてきました。今年度から学院長を兼務するようになり、その方針を学院全体に浸透していきたいと思っております。梅光学院のこれからの使命は、スタウト先生ご夫妻の時代の建学の精神に立ち返り、梅光に関わってくださる方々に一人でも多くイエス・キリストの救いを伝えていくことです。但し、その伝え方は年代によってさまざまあるかと思ひます。特に、若い人に対しては讃美歌も使用する楽器も、礼拝のやり方も変わってきています。それに対応することによって大学では学院礼拝の出席者が増え、活気あるものになっていますし、これが日曜日の礼拝出席にもつながり、結果としてイエス・キリストを救い主として受け入れる学生が起こされています。この流れは大変喜ばしいことです。

一方で、教育については時代の要請に機敏に応え、教育手法を大胆に変える必要があります。つまり、教える教育ではなく、学生・生徒自らが考え、学び取る教育、学生・生徒主体の学校づくり、海外留学を含めた体験を重視する教育プログラムの充実、ICTを活用した協働的な学び等です。

幸い私が必要と思った「教育」は、多くの高校生や保護者の方々に受け入れられ、大学は過去にも見ない隆盛を見るまでになりました。大学は三月に二百十六名の学生を社会に送り出し、四月には三百三十名という多くの新入生を迎え入れることができたからです。また、今年は大学にとって特別な年になります。一九六七年の開学から数えて五十年目という節目の年となるからです。お陰様で去る六月三日には多くの来賓をお迎えして、同窓生・教職員・学生と共に学院開学一四六年・大学開学五十年の記念式典や講演会、祝賀会を行うことができました。その席では大学開学五十年の記念事業の一環として建設予定である新校舎のイメージ動画もご披露致しました。どのような建物にするかということはこれから詳細を詰めていきますが、新校舎は二〇一九年三月には竣工予定です。加えて、この五年間増やしてきたさまざまな種類の留学プログラムが功を奏し、「世界大学ランキング」を出している「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション」というイギリスで有名な高等教育を扱った出版物の日本版で本学が「留学率NO.1」(短期)を頂きました。これからは、経験豊かな学生を育てていきたいと思っております。

生徒募集が最大の課題である中高も、幸いなことに昨年度、教育顧問としてご協力下さった島田清先生が、今年度から中高の校長としてご就任下さいました。島田先生は長く北九州の公立の中学校にお勤めで、校長としてのご経験も豊富な方です。校長時代は「イベント校長」と呼ばれ、どの学校に赴任された際も授業や生徒指導の質向上には無条件のこと、各種の行事を用いて生徒と保護者が主体的に関わることができるようにして学



校を活性化することに顕著な実績をあげておられます。この先生のお働きは日本テレビの「NEWS ZERO」で取り上げられたほどです。その島田先生が早くも全校生徒に呼びかけ、自分たちの手で体育祭を作り上げると計画していることは頼もしい限りです。特にその中でも注目すべきことは、日本体育大学の名誉教授清原伸彦先生にお越し頂き「集団行動」のご指導を頂いたことです。三日間という短い期間でしたが、生徒たちが一つになり、共に行動することによってチームワークが生まれました。この他にもiPad miniを活用したICT教育、来年度からは全員留学も予定しています。このように新しい校長先生をお迎えして、中高は活気が出てきています。

幼稚園の卒園児は現在のところ、同窓会の会員ではありませんので、詳細は割愛させていただきますが、英語活動などの新しい取り組みをすることによって、園児たちの明るい声が園舎に響いております。

このように梅光学院は時代のニーズを的確に捉えながら

全体で新しい歩みを始めています。こうした新しい試みは、内外から高く評価をされている一方、取り組む現場の教職員たちにとって、決して簡単なものではありません。それでもこれから更に押し寄せる少子化等の大波を乗り切ろうと、皆さん奮闘努力してくださっています。しかしながら、残念なことに、変化を嫌い事実の裏付けのない風説を流布している同窓生がおられるということに耳にします。これによって学院は風評被害にあり、学生募集、生徒募集に悪影響を与える結果となつていきます。私たちの学生・生徒時代から、時代は大きく変わり、教育のあり方や方法論も当然変わつていきます。近視眼的なものの見方によって短絡的に批判することは誰にでもできますが、それは学生・生徒・園児に何の未来も生み出してくれません。今、梅光学院に必要なのは過去の隆盛期を懐古することではなく、現役の子どもたちがこれからの社会を生き抜くための力をどう学ぶかということなのです。いま、梅光学院は本間理事長の

もと、財政を立て直し、中長期計画を立て、子どもたちの教育環境を整えられるところまでやってまいりました。同窓生のみなさまには、今こそ、子どもたちの「未来を生き抜く力」が育まれるように、梅光ファミリーとして力強いご支援・ご協力をお願い申し上げます。

同窓生の皆様へ

—学院長退任のご挨拶—

中野新治



此度、私は学院規程による70歳の定年制度に従い、学院長職を退任いたしました。これまでのご支援に心より感謝し、ひとこと、ご挨拶申し上げます。

私は、1975年、中学高校の国語科教諭として赴任して、42年にわたり学院にお世話にな

りました。48歳で短期大学学長を拝命して以来、大学学長、中学高校校長、学院長を勤めました。リーダーとしての非力さを痛感する日々であり、ふりかえって忸怩たる思いで一杯ですが、一方で、この学院で奉職できたことを深く感謝しております。特に、故広津信二郎学院長、故佐藤泰正学長に親しくお導きをいただきましたことは生涯の財産となりました。

2001年の大学共学化、翌年の東駅キャンパスへの移転を皮切りに、学院は激動の時代を迎えました。2005年の子ども学部新設、2006年の短期大学閉学、

2012年の中学高校の男女共学化など、いくつもの峠を乗り越えて来ました。その結果、2014年、学院は下関開学100年という大きな節目を迎え、記念式典(6月7日)をはじめ、様々な記念行事を挙行することができました。記念式典における学院関係者が一体となった心の高揚や、記念講演での姜尚中氏の「明日を明日として迎えるためには、変わりつづけないといけない」というメッセージは今も深く胸に残るものです。また、中学高校の丸山キャンパスに「梅光学院の先達たち」という顕彰碑を建てることができたこと、この3月には遅ればせながら『梅光学院100年史』が上梓できたことは誠に幸いなことでした。ご尽力くださった方々に厚く御礼申し上げます。しかし、一方で、長年にわたる学生、生徒の減少と、人件費の圧迫により、学院財政の大幅赤字が累積するという極めて深刻な問題が横たわっています。決して許されぬ状況でした。この存亡にかかわる問題に対応するため、これまでの学院



運営のあり方をすべての領域にわたって抜本的に見直し、さまざまな具体的な方策を取りました。本間理事長、樋口学長、只木統轄本部長のリーダーシップのもと、多くの方が熱い心を持って困難な道のりを文字通り一所懸命に辿ってくださったことには、感謝の言葉もあります。しかしながら、その痛みを伴う改革により、皆様にご心配やご心痛をおかけしたこと、改めて深くお詫び申し上げます。

現在、学院の長く続いた赤字体質は改善の見通しが立ち、大学は大幅な学生増により健全財政化し、2019年4月の新校舎(北館)竣工に向けて準備委員会が発足するまでになりました。中学高校はまだ改革の途上にありますが、4月から着任された島田新校長のもと、新しい執行体制の始動により、必ずや学ぶ喜びに満ちた学校が築き上げられることと確信しております。

地方における人口減少はとどまることを知らず、特に山口県の少子高齢化は全国でも屈指のものです。その中にあって、神の御心によって建てら

れた本学院が、校歌にもあるように信仰の旗を高くひるがえしつつ、この地になくはならないミッシヨンスクール

であり続けることができるよう、皆様のご支援とご理解を心よりお願い申し上げます。任のご挨拶といたします。

第十六回梅光メモリアルデー

佐藤先生の思い出

元本学大学副学長・現大学院非常勤講師

岡田 喜久男



皆様に思いを馳せながらお話をしたいと思います。

先生の学問的な面については、これまでも図書館や追悼礼拝で資料が展示・配布されましたし、直近の学院報でも触れられています。残された膨大な著書・ビデオ・録音によって偉大な学者としての佐藤泰正を知って頂くとして、今日は、私が直接見聞きしたこと、この極一部を申し上げます。

メモリアルデーは、この一年間に亡くなられた、もしくは同窓会に連絡のあった故人を追悼する日ですが、短い時間ですし、依頼された題が「佐藤先生の思い出」ですので、亡くなられた梅光学院関係の

門近くにあった幼稚園の古い園舎で、先生のドライブの利いたラリーの相手は専ら私が務めました。

会場には「アルス梅光」で、

佐藤先生の公開講座やセミナーに参加された方もいらっしゃるようですが、小規模な地方の私立大学で45年間も続いていること、公開講座論集が63冊も発行され続けているのは実に驚くべきことと言えます。

在学・卒業生・地域の方々の支えは勿論ですが、論集の最後に載せられている佐藤先生の文章に見られる、時代を読み、新しいものに挑戦する姿勢はお亡くなりになるまで変わりませんでした。論集が数冊出された頃、講演中の先生が両手を広げて、「これくらいの中になる程論集を出し続けたい」と言われたのを聞いて、私は「大きな夢だなあ」と思ったのですが、63冊の論集は丁度その位の中になり、先生の思いは見事に遂げられました。その論集を在職中(3年間)学生に読むよう熱心に勧められたのが山路平四郎先生で、教室で紹介されると全員が買ってしまう現象が起き

ました。口癖が「私学は筵旗^{むしろうばた}を押して進むものだ」で、広津先生の学生時代からの御親友でしたが、梅光を去られて暫くしてお亡くなりになりました。御葬儀に、学院から佐藤先生が出席されることになり、山路ゼミの一人である私もお伴しました。福岡空港に行くとき、カウンターに梅光出身の人が居て、嬉しそうに席を選んでくれました。相模原市の自宅での式場に到着しますと、佐藤先生への突然の弔辞の依頼で、30分後に式が始められました。梅光学院での山路先生のお働き、お人柄を具体的にまた敬愛を込めた弔辞で、参列者一同心から御冥福を祈りました。

佐藤先生が体調を崩された時、半年程先生の御自宅で院生の授業が行われましたが、このアイディアは、山路先生が近くの大学の院生を御自宅で教えられたのに倣ったものでした。

佐藤先生の名声と広い人脈によって、多くの著名な方々が学院に講演や授業に来られました。これは学院に学ぶ者や下関の方々に最高の話を、



それも生の声で聞かせたいと先生の強い思いからでした。講演の後には、必ず講師と佐藤先生を囲んでの会が開かれ濃密な時間を過ごしました。その折の柔和な笑顔の中での鋭い適確な御発言は、その場限りでは無く、将来を見透したもので、一同感銘を受け、その日参加できたことを改めて喜びとしました。

先生のお側に40年以上居ましたので、思い出すことも多いのですが、大学の一期生でまさしく聲咳に接した片山宣子先生が次に据えていらつしやるので、私の話はこれ位にさせて戴きます。

「佐藤先生の思い出」

片山宣子
(高19・大日1)

今日は佐藤先生の思い出を語る役目なのですが、私は自身を不肖の教え子と思っておりますので、今とても緊張しております。

学者としての佐藤先生、梅光に対する深い思いなどは多くの方が語っていますし、こ

れから皆さんが目にする梅光誌48号にも多くが語られています。

私は、あえて私的なことを語りたいと思います。私が中学校に入学した頃、勿論先生は校長先生として、国語の教師としていらつしたのですが、田舎者で、ぼんやりとした私は、中1・2が今のこの場所、後田町にあったこと(東駅校舎と呼ばれていました)も影響していると思いますが先生の特別な印象は残っておりません。

中3になり、丸山の校舎へ通い始め、記念館と呼ばれていた戦災をまぬかれた木造の教室(本館の教員室と離れた、しかも低いところにあるためちよつと自由で、今は出入りできない後ろ庭で遊べば大人の監視からかくれんぼのできる場所でした)ここで中学校生活の最後の年を過ごすことになりました。この時、佐藤先生から「徒然草」を教わりました。先生のお顔はあまり記憶にないのですが、徒然草の印象は強烈です。とても新鮮で面白く、その後もその一節をしばしば思い出す作品となり

ました。作品の印象をこんなにも強く中学生に残し、そのお顔は臍という先生の授業はすごいものだし、この体験は、無意識のうちに私の理想の教師像にも通じるものとなりました。

さて、このように先生と早くに出会っていたはずの私が、先生をその姿とともに思い出すことができる二度目の出会いをしたのはやはり梅光大学の一期生としてその教えを受けた時です。大学受験に失敗した私は、途方に暮れ、毎日の家の廊下を磨きながら、どのように次の一步を踏み出せばいいのかわかりませんでした。

梅光の大学に入学することは自分のプランには入っていませんでしたし、母だけの家庭環境では浪人生活も不可能でした。その時、担任の先生のお世話で思いかけず一期生となることになったのです。その後の梅光との縁を考えてみると不思議な出来事です。

佐藤先生は一年生の私たちに文学の講義をなさったのですが、その最初の授業の時、山村暮鳥の詩を引用され感想を求められました。多分、そ

の時最初に意見を述べたのが私だったと思います。先生はいつも学生に、拙い考えであっても発言できる自由さを与えて下さったように思います。その後も、先生の授業は本当に楽しいもので、いつも新たな驚きがあるものでした。

先生は研究者として意欲に燃えておられました。それが日々の講義から強く感じられ、後年先生から伺ってその失礼をわびたのですが、廊下ですれ違った時、私が佐藤先生に「先生、この頃とても勉強していますね」と声をかけたそうです。先生はこの話をされて

「僕は、あなたからそう言われて嬉しかった」とニコニコされました。生意気で非常識な学生の一言をそのようにおっしゃって面白そうに話された先生を懐かしく思い出しますし、私にとってはうれしい思い出の一つです。

ご自宅での読書会、十分読み込んでいないと直ぐ恥をかき厳しさがありませんが、その後の楽しいお茶の時間、ご夫人の京先生を交えていろいろなお話を楽しく過ごしました。私は父という存在をほとんど知らずに育ちましたので、ご夫妻を見ながら憧れ

- ご案内 -

第17回 梅光メモリアルデイ

日時 2017年7月4日(火) 13時30分より
場所 梅光学院大学
東駅キャンパス スタージェスホール
お話 「恵みの記憶」
元日本キリスト教団下関教会牧師
三輪従道先生

合唱 コール梅光
指揮 澄川 孝子 (高23)
伴奏 田村 優子 (高27音)

※写真を掲げる場所を設けます。
(旧教職員、卒業生など梅光学院にかかわられた方々の遺影をご持参下さい。)



を抱きましたし、夫婦の会話や在り方のひとつを教えていただきました。「泰正さん」「京さん」と呼び合い、互いの才能を認め、支え合う姿は周りの者をも幸せにする魅力がありました。

7月1日(一年の半分のスタートの日)が結婚記念日であること。プラットフォームで乗るべき電車がわからず立ち往生する京先生の夢の話をされた時の先生のお言葉。この話は研究者として生きることの孤独や精進を強く感じる機会でした。ご自分の友人の多くが戦争によって生きることができなかったこと、そのためご自分の人生を与えられた余生と表現し、ほかの多くの命の分まで真剣に生きることをその身をもって示されたこと。戦後の子供園での経験から、どのような相手でもその可能性を信じ、希望を見出し育てることの大切さを情熱をもって語り、それが先生の教育の原点になっていること。何事にも好奇心を持ち続けることの楽しさ(井上陽水はいですとねと作家のことを語ると同じように語る先生の

姿)。愉快的話がお好きで、私が大学の先生のまねをするのを面白がってリクエストされたこと。子育ての悩みを打ち明ける私に笑って問題ないし、子供はそれぞれ違うのだから焦る必要はないとアドバイスしてくださったこと。次から次に思い出が笑顔と共によみがえります。どれも大切なありがたい記憶です。

先生の突然の訃報をお聞きした時、私は暫くご無沙汰していたことの後悔の思いと共に先生の記憶をたどっておりました。その時、突然、あのからし種の話(マタイ)が心に浮かびました。「天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑にまけば、どんな種より小さいのに、成長するとどの野菜より大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。」という個所です。それから詩篇の「憩いの水際」という言葉も浮かびました。そして、佐藤先生という木に食物を求め、巣をかけ、慰めを与えられたことを強く思わされました。からし種の話は天の国をたとえて語っている個所ですが、小さな行い

やひとりの人間という小さな存在が人との交わりの中で生み出す天の国を語っていると私は考えます。佐藤先生との交わりの中でおそらく、多くの人が、慈しみや安らぎ、人としての生き方を教えられたと思うのです。それもさり気なく教えられたと思います。先生はご自分を大きく見せようとする方ではありませんでした。しかし先生と共にいることでいつの間にか多くの感化を受けることができたと思うのです。いつの間にか自分の生き方を見直す機会を与えられたと思うのです。

私事ですが、私は四人の親をもう送りました。寂しいことに母の日や父の日にありがとうと言える人はいなくなりましたが、語られたこと教えられたことは、年月を重ねるにつれ、浄化されながら鮮明になっていくように思います。そしてその思いを深く知りたいたいと思うようになります。同様に、今は、かつてのように佐藤先生と相對することはかなわらないのですが、日々先生の教えや志について考えるようになりましたし、これはこ

2016年度(2017年5月迄に)お知らせのあったご逝去者名(65名) 御霊の上に、そしてご遺族の上に神様のお慰めのありますように。

旧職	米田 初男	1991.7.31	高3	宮脇 弘子	2016.9.4
旧職	鍋島 幹夫	2011.	高3	大坪 泰子(村田)	2016.12.9
旧職	滝本 哲也	2016.8.6	高4	岡田 恵子	2017.2
旧職	井本 文子(満永)	2016.9.25	高4	鯉川キヌコ(活田)	2017.3.24
旧職	安部 保子	2016.11.2	高4	中村 満州子	2014.9.16
旧職	斉藤小百合	2016.12.22	高5	津守 正枝	2015.12.10
旧職	光宏	2016.12.12	高6	渡辺 真子	2015.9.25
梅15	富田 照子(松原)	2015.	高7	伊藤 玉名(福田)	2017.1.30
梅16	江野 寿枝子	2016.4.23	高8	吉田 節子(江ノ本)	2016.8
梅18	富岡 万津子(藤田)	2012.10.5	高9	山口 知津子	2016.12.10
梅19	上高 道子(菅田)	不明	高10	児玉 安子	2016.10.3
梅20	荒井フサ子	2011.9.29	高12	飯塚 暁美	2016.8.30
梅22	糸川満珠子	2016.11.2	高12	桑原 礼子	2012.9.28
梅22	仲吉 静江	2016.12.10	高13	木内 佑子	不明
梅23	坂井田鶴子(坪内)	2016.1.3	高14	永原 純枝	2015.8.20
梅24	太根 敏子	2016.1.2	高14	富田 俊子(和気)	2015.6
梅26	弘田 満子	2016.10	高15	大津 恭子(松下)	2017.3月1日葬儀
梅26	三隅千枝子	不明	高17	氷室 恭子(上田)	2016.9.11
梅27	久野玲子(森島)	2016.1.5	高21	浜崎 俊子	2015.12
梅27	小林かすみ	2016.11.8	短日4(高20)	川口 勝枝	不明
梅27	坂野 久子	不明	短日7	吉田 亮子	2016.1
梅29	後 美代子	2014.9	短日9(高25)	高浜 郁子(吉部)	不明
梅29	松本ふみ子	2016.1.30	短日20	岩本 まゆみ	不明
梅29	村尾伊津子	2016.8	短英11	池田 明美	2016.8
梅30	河本富美子(橋本)	2014.12.30	短英26	中島 恭子	2005
梅31A	武田ヒロ子	2013.6.13	短日27(高43)	菊谷 昌子	不明
梅31A	佐々木 順	2015.12	短英27	柳井 祐子	不明
梅31A	野松登喜子	2016.3.16	大英9	植村 妙子	2016.11.19
梅31B	岡本 慶子	2016.4	大英11A	三浦 美子	不明
梅34	土谷 禮子	2016.10.21	大日15	湯木 真美	不明
梅34	藤井寿美子	2016.10.3	大30日(短33日)	星野美奈子(広渡)	2014.
梅34	石井 稔子(立花)	2016.11.8	大日33	豊島 サツキ	2015.5.23
梅35	中山 玲子	2016.6.18			



れからも続くと思います。先生は私に、いや私たちに天の国を作り出す生き方の出発点を指し示して下さったのだと感じています。そう考えると梅光の一つの時代が終わるのではなく始まりの時だと感じます。先生ともしっかりいろいろなことをお話ししてみたかったと思うのですが、今はもうそれは出来ないですね。しかし、自分の中の先生の姿や言葉を掘り起こして語り合うことは始まったばかりです。

滝本哲也先生



1951年4月 梅光女学院に奉職、社会科教師となる。就職指導・ソフトボール部顧問などを務め多くの生徒に親しまれた。母教会の下関教会の教会会計を長年務め、長老として信仰者の歩みを全うされた。1999年退職。2016年8月召天。

滝本哲也先生を偲んで

中川 泰子
(高10)

滝本哲也先生は不思議な方だと思っています。その青年期・壮年期・老年期に亘って内面的にも外見的にも少しも変らぬ事です。昔の言葉に「万年青年」という言い廻しがありました。まさにそれを生

きた方だったと思います。私が梅光中学校に入学した時は青年教師でしたが、口調や物腰・姿勢や表情に至るまで、思い出す先生のイメージの一つです。本当に不思議な方としか言いようがありません。教師として、恩師として、教会においての教友として長いお付き合いとなりました。そのご生涯を一言でいえば「誠

実」であろうと思います。何があっても、誰であっても少しも変らぬ態度で接しておられたと思います。長いお付き合いの中で、先生との会話を思い出しながら断片的ですが偲んでみたいと思います。

梅光女学院では社会科の教師として、教科や生徒指導に力を尽くされました。物静かな口調と几帳面な板書、テスト時のギッシリ細かな謄写版の字、私はそれを見ると目まを覚えたものです。スポーツは大抵のものは好きで、観る方では野球。特に高校野球と巨人の話題が多くありました。それに秘話として「格闘技」が大好きだと聞きました。幼児期は体が弱く、おばあちゃん子で大事に育てられ、好き嫌いの多く、特にネギ類が食べられず、教会で出るうどんや汁物にはネギを入れない配慮がされました。そのように体力的に少し自信がなかったのか、常に体を鍛えようとする意識が働いたのか、自家用車を持たず公共交通機関を使い、梅光の長い坂道を歩かれました。テレビで観る力士や格闘家の強さや逞しさ

に「あこがれ」があったと笑って語られました。

当時の梅光の教職員方は皆、仲が良く、趣味を共有し学問も遊びも教科を越えて盛んな交流があり、その事は学校の雰囲気にも生徒に与える影響にも大変良いものであったと思います。山登りや短歌の会もお互いに楽しまれたようでした。特に山登りはお好きで、地元の山や近隣の山を踏破されました。中でも「くじゅう山」はお気に入り何度か登られました。始めの一步から帰ってからの「カンパイ」まで綿密な計画を立て、安全第一の登山を心掛けたと言われました。登山装備も服装までバシッと決まっていました。

平成22年5月、病を得て入院、治療を受けながらリハビリに励んでおられました。先々で梅光卒業生の看護師さんに声をかけられ心強く思っただけと言われました。ある年に外出許可が出て「どこに行きたいですか」と問われ「下関教会」と答えられたそうです。介護士の車で教会を訪れ、万感の思いに浸られた事でしう。教会生活は70年に及び、

小幡慶助・篠原満・三輪従道と三代の牧師のもとで長老として誠実に奉仕されました。平成28年8月、武久病院に入院されていましたが、病院の夏の花火大会を窓越しに楽しまれ、その後静かに息を引き取られたと伺いました。闘病生活の長い間、ご家族の厚い遠距離介護を受け、おだやかな日々を過ごされ、88年の生涯を変らぬイメージのまま天国に召されました。ご遺族の上に、神様からの平安と慰めを心よりお祈りいたします。

梅大書道部・書道課程卒業生による

第22回 風信会書作展

会 期 2017年8月25日(金)～27日(日)
10:00～17:00 ※最終日は16:00まで
会 場 やまぎん資料館(下関市観音崎町10-6)
TEL 083-232-0800
連絡先 堀山 貴子 TEL 083-927-0120



恩師は現在^{いま}

暇を持て余していません

力丸 晃
(元梅光学院中高校長)



ちょうど50年が過ぎた。

最初の30年は懐かしの中高での英語教員として。その後20年は、短大・大学の教員(含非常勤)として。後半の20年の中に三年間の中高校長としての時間も刻まれた。特にこの三年間は保護者としての卒業生に、彼らの生徒時代に私がした「しうち」に対して謝る日々であった。

チャペルでの厳かな礼拝。久しぶりに見る講壇からの景色は、生気に満ちていた。生

徒たちの目が生き生きしていた。懐かしい入場の足音。響く歌声。聖書の言葉。祈り。退場。梅光で一日を始めるには最もふさわしい時間が流れる場所。

校長を退職した年の秋に妻を亡くした私の現在は、広いマンションでアート三昧だ。大学を自主退職した時から夢見た時間は、一時中断したが二年前に再び違う形で始動している。この原稿を提出した後には自身三度目となるオリジナルアートの個展をしているはずだ。近所に住む教え子が私の作品を見にきて「先生、ほーっとする暇がないですね」と言って帰って行った。

朝から晩までアート三昧は、私の趣味ではない。午後には車や自転車運動を兼ねて小倉まで行く。そこを拠点として一時間くらい歩きまわる。コレットで9円のレタスを発見してウキウキ帰ることもある。レタスしゃぶしゃぶへの妄想が自転車をこぐ脚に力を与えてくれる。

孫たちと遊びながら、アート作成に熱中しながら、自転車をこいだり歩きまわりなが

ら、ふと広津先生を思い出す。私が若い頃から院長室で多くの話を下さった。その一つが梅光愛にあふれていることに、いつも感銘したものだ。厳しさの中にも温かさ溢れていたことを思い出す。院長室を辞するとき、心はいつもぼかぼか陽気だった。私は梅光の卒業生ではない。それでもその頃の梅光ファミ

残務整理の日々

宮野 光男
(元本学短期大学
日本文学科主任教授)



リーの一員であることは間違いない。
小倉から門司に向かいながら、神様は梅光をどこに導こうとしているのか一人問いかける。自転車をこぐ脚の力が弱まっていることに気が付く。慌てて脚を動かす。動かすと、確実に、自転車は私を目的地に運んでくれるのである。

卒業論文、修士論文以来、

短大、大学のゼミの諸君との学びのなかで続けてきた有島武郎研究は『有島武郎の詩と詩論』(二〇〇二・六 朝文社)としてまとめ、祥子のグレアム・グリーン論(INNOCENCE IN GRAHAM GREENE'S NOVELS, 2006 Peter Lang)がまとまったところで、四十六年間在職した梅光を辞して広島に帰ってきました。

以来、私は、教会の書記、教会学校教師として、また教会芸芸誌「みぎわ」の、そして祥子は教会広報誌「シャローム」の編集に携わってきましたが、これも、そろそろバトンタッチを考えなければならぬ時を迎えたように思われ

る昨今です。

身の回りのこととしては、家屋内に散在している雑多な生活用品の整理もさることながら、雑草文庫と名付けたような書物の整理もあるのですが、これについては、勤務先の大学の資料として、あるいは自身の研究に役立ててくれるという、奇特な卒業生の好意により、残り三分の一を送り出すことで何とか終える見通しが立ったところです。

短期大学での基礎ゼミの学生諸君に、〈しなりん〉といって嫌われた椎名麟三研究は、徐々に〈へりんちゃん〉といって親しまれるようになりながら続けましたが、以来、椎名麟三文学における〈わからないうもの〉追求というテーマで考え続けてきました。これはあともう少し残っている問題を片付けて、この秋にはまとめ終わるつもりです。そして、有島武郎研究、椎名麟三研究から遠藤周作、森内俊雄、矢代静一と、芋づる式に展開した、近代日本文学とキリスト教との関わりを、学生諸君といっしょに考え続けてきましたが、そのための具体的なテー



マである(近代日本文学のなかのマリアたち)のまとめが、最後の残務整理になることでしょうか。(マリア狂い)という、考えてみれば身に余るニツクネームを付けてもらいながら、文学だけではなく、絵画のなかに、音楽のなかに生きていくマリアたちを探し求めてきましたが、学生諸君もいっしょに丹念に探し出してくれました。中には、卒業後も、思いがけないミステリーの中に潜んでいるマリアたちを見つけて教えてくれたり、旅行先の美術館で見つけたマリアたちの絵姿を送ってくれたりなど、それはそれは大きな励みでありました。有り難うございました。もちろん、教会での読書会では、これからそれぞれ作品を読み続けていくことでしようが、それをまとめて皆さんに読んでいただくということとはなかなかないことだと思います。できればまた、いっしょに読んでみたいものですね。

動に参加して、学生諸君とともに楽しい時を過ごしたことも、私にとっては忘れがたい思い出ですが、それは整理することのできない恵みであったと思っています。ただひとつ、創設準備から始まって、その歩みをもたしてきた短期大学の終焉の時に立ち会うことができず、最後の卒業生諸君の旅立ちの姿を見届ける

子どもの幸せと少子化

小田 豊
(聖徳大学児童学部教授)

毎年一月一日、厚生労働省が人口動態統計の推計値を明らかにしています。ここ最近の発表があるたびに必ず少子化への不安や警鐘に似た記事や論評があります。その中で今年は「愛情をはき違えた父・母急増で新しい産業の台頭」という記事が目につきました。その内容は、子育てをしながら、仕事も家事も手を抜かないワーキングマザーが増えているのだそうです。し

ことができなかったことは痛恨の極みで、これも整理することのできないことのひとつだと思っています。

梅光が、今の窮状から回復して、皆さんといっしょに、人生を語り、文学の喜びを分かち合うことのできる日が来ることを祈り求めながら、取りあえずの近況報告です。

かし現実には、なかなか実行が難しく、忙しい母親に代わって食事や勉強を含めた子どもへの様々な面倒を見てくれる新サービスが拡大しているというのです。例えば、従来の幼稚園はもちろん、保育園や学童保育を超えるサービスの仕組みを持ったアウトソーシングのビジネスの創出です。そこでは、園や学校という壁を取り払い、共働きの家庭を具体的にサポートするとして、子どもの宿題を手伝うことはもちろん、人格形成の基礎として家事を身に付けるために料理までも教えているそうです。

そこを実際に利用している

方に話を聞くと、たしかに働く親にとって子どもと接する時間が少なく、しつけや料理など家庭教育で伝えるべきことに、十分に時間をかけていないので、従来の公的な教育機関では得られないものを補ってこれていて満足している、と答えています。そのま

か真実は、忙しく何も出来ないのだから他者に依頼し、自分の至らなさや不十分さを見せたくないので、依頼先でうまく行かないときには、まず子どもに当たり、次に依頼している先に文句を言い、すぐに別の場所に変えるという繰り返し。その結果、子どものストレスは大変なものになっています。そこでは、決して自分が責任を負うことはなく、常に他者に責任を押しつけ、最後には自分の子どもではないという言動までもする親が出てきていっていると言われています。もはや、そこには少子化の何たるかさもありません。一般的には子どもの問題というとな、少子化の問題とすり替えられ、数的なことのみが問題にされ、本来に必要な子育てや教育の質的な有様は論議されず、対症療法的な手法に追い込まれている学校や園が増えていると聞きます。

真の少子化とは子どもの出生等による数の減少を意味するのではなく、現在の豊かさの中で子どもたちの生き生きとした姿が減少し、子ども本



来の姿が無くなり、子育てや教育の在り方に不安を抱いている現象を指している言葉ではないでしょうか。確かに現実の子どもの数の減少も将来を見据えて不安材料の一つかも知れませんが、少子化の真の不安はそうした数的なものではなく、子どもの育ちという教育の質的な面での問題な

のではないのでしょうか。その意味では、現状の子どもたちが生き生きとし、未来へ向けて充実した日々が保証され、誰もが子育てが楽しいと感じることが出来たとしたら、現在のように「少子化が心配！少子化が問題！」などということとは無いのかも知れません。

卒業生は現在^{いま}

あの頃あつての今

筒井 亮介
(大40ア)

2008年の夏、北京オリンピックの聖火ランナーが、ちょうど私が留学している中国・青島市を通り過ぎて行きました。留学生活にも慣れ、遊びに勉強に毎日が精一杯だったあの頃は、まさに青春と呼ぶにふさわしい時間だったと思います。今思うと、梅大生であつたあの時代というのは、私の

人生の中で最も大きな転換期であつたと感じます。あの時出会った人、培った経験は、今なお私に大きな影響を与え続けており、その中でも留学という経験は、特別に大きな割合を占めています。

一口に留学といっても、それに臨む気持ち、態度は人それぞれだと思えますが、私にとつての留学は、まさに自身への挑戦でした。最初の頃は、全く授業についていくことができず、先生が中国語でテキストの何ページを開いてと言つてもそれさえもわからず、隣席のクラスメートをいつもチラチラと見て教えてもらっていました。宿題、予習が深夜になつても終わらず、

追い込まれて投げ出してしまひそうになったことも何回もありました。そんな状況でも最後まで挑戦を頑張れたのは、やはり苦しい家計の中でも私の留学を支援して支えてくれた家族の存在があつたからでした。ここで乗り越えてきた経験は、留学を終えて日本へ帰つたあと、そして卒業、就職して今日に至るまで様々な所で役に立っていました。

私が卒業後就職したのは中国系物流会社の日本支社で、貨物について中国本社との間で素早く頻繁に情報を交わし、日本のお客様へそれを提供するのが主な業務でした。また、中国のお客様が来日されることも多く、通訳や接待を行う機会もあり、新人のうちから自分の能力を存分に活かせる職場でした。さらに貿易業務が始まつた際には、お客様、メーカー様との交渉、契約締結から日程の調節、各証明書の準備等、大変ではありましたが自分の努力で日本の製品が海外へと売れていくことに大きな達成感を味わうことができました。同時に、自分が在学中に学んで来たことを無

駄にせず発揮できていることに、深い喜びを感じるようになりました。

自分の中国語が日中間の架け橋になっている、最近そんな実感がじわじわと湧いてきています。梅大の小さな教室から始まつた中国という国と

海外で生きる

岩倉 万希子
(高66・M38)



梅光学院高等学校を卒業し、オーストリアのウィーンへ留学して3年経ちました。ずっと憧れていた街で尊敬する師の元、私は今、音楽を学ぶ喜びと尊さ、人々との出会いのありがたさをかみしめています。

の出会いが、今なお大きく成長を続け、私にとって無くてはならないものへなりつつあります。梅大で出会った人、培った経験は、これから先も私の人生を、より素晴らしいものへ昇華させていくてくれると信じています。

ウィーンに来た一年目、私にとって一番印象深かつたことは、一人で生活していく事の責任と、周りの人々から本当に支えられて生きているということでした。私が住まいを見つけ、生活の基盤を作る事が出来たのは、ウィーンで紹介していただいた日本人女性のおかげでした。大家さんとの交渉、住民票の届け出、保険のことや銀行開設、そして一番重要なビザの申請まで、すべてにおいて助けられました。しかし彼女が日本へ完全帰国した頃、全ての事がスムーズに進む事は無く、ビザの申請から受け取りまでには相当な時間と体力を費やしました。事務処理の手違いで私はビザを受け取る事が出来なくなり、オーバーステイだから一度日



本へ帰るように言われてしまいました。オーバーステイした場合、一度日本に帰国してもオーストリアに再入国出来る保証は無く、今始まろうとする私の音楽留学の道が絶たれるのではないかと、今まで感じた事の無い焦りと不安に襲われました。しかしこの絶望的な状況に救いの手を差し伸べてくださったのは恩師、トーマス・クリスティアン教授でした。彼は自分の仕事やコンサートの合間を縫ってビザの役所と連絡を取り、更には大学の学生課にも事情を説明して問題を解消するよう、応援を呼びかけてくださいました。私はこの時ビザが受け取れない焦りより、自分の時間を割いてまで弟子の抱える問題と一緒に向き合い、助けてくれたクリスティアン教授の愛に感動し、また言葉も十分に理解できない異国の地で差し伸べられた手に心から感謝し、自分がたくさんの人に支えられていること、そして人の温かみを実感しました。

ウィーン留学二年目からは、コンクールに挑戦し始めたり、

演奏会などのチャンスを頂きました。コンクールではポルトガル、ドイツ、イタリア、チェコを訪れ、コンディションが良かったり運が味方してくれた時は、最優秀賞として1位を頂くことが出来ました。また、学校の指揮科の為に演奏会ではソリストとして選ばれ、シベリウスのヴァイオリンコンチエルトをスロバキア交響楽団と共演させて頂いたり、イタリアでは二つの小さな田舎町でコンサートをさせて頂きました。日本でもオーケストラや室内楽演奏会に出演する機会を頂き、地元に戻るきっかけや、自分の学びを発信できる場となっています。コンクールに挑戦したり、演奏会に向けて準備することは作曲家とその曲を深く掘り下げて向き合う貴重な時間でもあり、自分と向き合い、生活の時間配分や優先順位、体力と集中力など、様々なことを考え、コントロールし、打ち込む時間でもあります。自分の能力や技術が追いつかなかったり、考えが固まって創造力にかけ

てしまったりすることもあり、ですが、それでも何かに情熱

を注ぎ追求していくことはとても充実した時間となります。そして一度しかない本番を迎えるのは、緊張は勿論ですが、曲を提示し音楽を伝えることができる楽しみがあり、演奏を通して自分のすべてが出る瞬間です。お客様からの拍手や激励の言葉、自分の演奏が温かく受け入れられることはとても嬉しく、また共演者との意見交換や、審査員からのアドバイスは新たな可能性を見出すきっかけになります。本番後は達成感や反省など様々な心境の中、すべてが演奏家としての糧になり、成長出来る時間だと感じています。

それから、私がウィーンにきて良かったと思うことは、やはりその国の作曲家を身近に感じられることです。どれだけその作曲家に近づけるかというのは、演奏する上でとても重要なことであり、作品の背景を知ることにより多くのアイディアやインスピレーションが生まれます。実際に作曲家たちが住んだ家があり、足を運んだ場所があり、景色や食べ物があるところにあります。小川に沿って歩きな

がら聞こえてくる鳥のさえずり、雪に覆われた畑の中にたたずむ家、石畳の道を行く馬車の音、雨の日も晴れの日も響き渡る教会の鐘や、街やカフェ、通りすがりに聞こえてくる人々のしゃべり声など、当時の作曲家も聴いて感じたであろうことを自分も体感することが出来るのです。何より感じることは、その国の文化が自然と音楽に寄り添い、音楽に精通していることです。ウィーンといえばワルツですが、ここでは言葉で理論的に説明された音楽ではなく、ウィーンの人々の内側から流れ出るリズムと、雰囲気があります。私からしてみれば輸入品のように感じることも、彼らにとっては生活の中で身に付いたものの様に思えます。それから、教会音楽を学ぶこと、教会へ足を運んでみることで、作品に現れるキリスト教の精神などは梅光学院の卒業生である私にとっても親しみやすく、梅光での学びがあったからこそ理解でき、さらに興味を持つことができます。

そしてもう一つ留学してい

るからこそ得られるのは彼らと同じ言語を扱えることです。今まで日本語しか喋ってこなかった私がドイツ語を学んで気付いた事は、音楽と言語にも深い関わりがあるという事。ドイツものにはドイツ語、フランスものにはフランス語のアクセントやイントネーションがあり、音の流れ、フレーズ、発音などそれぞれ喋り方にとっても似ています。作曲家がどんな性格で、どのような状況下におかれ、何を表現しようとしたのか、またその当時の歴史について知ることや、彼らと同じ言語でコミュニケーションできることは、私が留学したいと思った理由の一つでもあり、学ぶことの醍醐味でもあります。

音楽は国も人種も時代も宗教も、あらゆる違いを越えて全ての人の喜怒哀楽に触れます。作曲家の意図があり、そこに重なる奏者と聴衆の喜怒哀楽は時として感動を生み、大きなエネルギーを発生させます。音楽家を目指す私たちが演奏家にできることは音楽というコミュニケーションツールで、その時空を越えた



世界を再現させ、人々に伝え受け継いでいくことなんだと、音楽留学を通してその使命感を見つけられました。海外で生きること、そこでは日本の常識など通用しませんが、様々な人種が入り交じって生まれる新鮮な世界があり、一人一人の意見、考えの主張があります。留学生達はそれぞれの夢や目標を持ち、自分たちが求めるものを追い続けま

す。私もたくさんさんの刺激を受けながら、自分の夢や目標を見失わずに図太く生きたいと思います。また、日本で、ヨーロッパで出会ったたくさんの方々とのご縁を大切に、両親、先生、友人、応援してくださり支えてくださる全ての人への感謝を忘れずに今後の留学生生活を有意義なものにし、精進したいと思います。

コール梅光

十五周年記念クリスマス礼拝&

チャリティーコンサート

平成二八年十二月三日下関市生涯学習プラザ「海のホール」に予鈴のチャイムが鳴る。ステージは暗くキャンドルとクリスマスツリーが照らし出されている。やがてオルガンの前奏が流れ、「ひさしくまちにし」の音になると灯りの行進が始まる。灯りは客席で交差しステージに上り整列する。「主よ、主よ、み民を救わせたまえや」丸山校舎の講堂で

そうしたように、入場で気持ちを清らかにする。コール梅光はクリスマス礼拝をこのようなスタイルで続けてきたが、今回は特別である。十五周年という節目にいつものスタージェスホールを飛び出し「海のホール」で行ったのである。前日から会場でいろいろな準備をした。ロビーにはマタイ福音書第二章十一節の聖句と共に、クリスマス礼拝の空気

を感じられるようにと黄金、乳香、没薬のシーンの陶製の人形を並べた。ステージの大きな赤いキャンドルも本場の火がゆれる方がよいからと、消防署に許可を受けに行ったり。またステージで映えるようにと、大きなクリスマスツリーを運び飾りつけたり。ゲスト熊野小学校合唱クラブの皆さんには40名分お菓子の包みを用意したり。それはそれは、お・も・て・な・しの準備に妥協はない。みるみる殺風景なホールが梅光色に染まっていた。

初めての会場なので、一旦楽屋に入ってしまうと、迷路のようなバックステージ、出番直前迷子になることも…。平均年齢の高いメンバーにとっては、それだけでも、かなりの神経疲労である。とはいえ、澄川先生の指導もこれまた、妥協はない。合唱のリハーサルも前々日、前日を行い、本番に備える。

当日は同窓会役員の方々も受付を手伝って下さった。すっかり準備の整った会場、本番五分前、ガウンに身を包み緊張の面持ちでペンライトを握

る。そして灯りの行進へ…。讃美歌のステージが終わったら一旦楽屋へ帰るリラックスムードかと思ったら、シーンと誰もおしゃべりをしていない。楽屋のモニターの音声に聞き入っているからだ。ステージで行われている齊藤皓彦先生のメッセージ「風に立つライオン」のお話がモニターから流れていた。生き方を考える、心に温かいものを頂けるお話を受けて、ハレルヤのステージへ。客席からも歌声が響きホール全体がひとつになった。齊藤先生の祝祷、後奏、クリスマス礼拝が終了する。

休憩の間に急いで着替える。さあチャリティーコンサートが始まる。さわやかなグリートのドレスがステージをぱつと明るくする。「マザーテレサ愛のことば」四曲目の「主よ今日一日」ではマザーテレサの言葉とコーラスとが重なる。朗読するのは中川泰子さん。コール梅光ならではの選曲である。これも無事に終え、また着替える。その間、ゲストの熊野小学校合唱クラブの子どもたちが真っ直ぐで透명한すばらしい声で、会場を包ん

でくださる。澄川先生のソロも加わり、ステージを盛り上げる。

天使の歌声のあとは、経験豊かな歌声だ。ゴールドのブラウス、ピンクのロングスカートの映画音楽などをうたう。澄川先生に褒められた「ろくでなし」では客席から手拍子もいただいた。最後に歌ったのはコール梅光のうた「光の子らしく」。私たちが学んだあのままの梅光が続きますようにと祈りを込めて歌った。たくさんの拍手をいただき、アンコールに熊野小学校と一緒に「おいでませ山口へ」り色のメッセージをうたってチャリティーコンサートを終えた。「きよしこのよる」をうたいながら、ロビーへ出てお客様をお見送りした。

舞台袖では曲がっている腰もステージに出た瞬間シャキッとすると、自分のことより来て下さるお客様のことを一番に考えるというお姉さま方の心意気にも本当に感動の十五周年だったと思う。恐るおそるの「海のホール」だったが、スタッツの頑張りもあり、たくさんの初めてのお客様



様にお越しいただけたこと、また、スタージェスホールでは階段が登れないと諦めていた方が、このホールなら大丈夫と喜ばれたこと、そしてこの度は二年ぶりに村上美代先生が車椅子でお見えになったことなど「海のホール」効果は充分あったと思う。

聴いてくださった卒業生から「本当の梅光を見せてもらった」と言葉をいただいたと聞き、会長の梶間眞壽美先生、副会長の豊永綾子さん、桐原浪子さんはじめスタッフの心配り、メンバーの頑張り、それを引っ張って一つにまとめる澄川先生の想いが実った記念コンサートになったことを感じた。

十五周年が終わったらコール梅光をやめるという声が聞こえていたが、誰一人やめずに、休みなく練習を頑張っている。六月には東京支部の総会で歌わせて頂くことになっている。

コール梅光ピアノ

田村 優子 (高27音)

支部だより

東京支部

平成28年度東京支部総会及び懇親会は、5月18日(水)ホテルモンテレ横浜で行われました。当日の天候は見事な五月晴れで、横浜で最も象徴的な口ケーションである山下公園と横浜港を望みながら、総勢80名の御出席を賜り、開催されました。

まずは飯沼支部長の挨拶で始まり、礼拝の後、本間理事長と中野学院長のご挨拶があり、現在、学院のおかれている現状及び今後の学院の見通しについて厳しいお話がありました。

これからの学院の未来に対し、私達同窓生の不安に思うところは大きいものがありますが、理事長と学院長がそれぞれのお立場で改革を進め、学院の未来を導いていく思いをもって務められているものと一同信じております。

続いて、東京支部総会並びに同窓会会長交代のご挨拶を、浜谷先生そして片山先生から

頂戴しました。

会食は、樋口学長から食前の祈りを頂き、2015年11月30日にお亡くなりになられた佐藤泰正先生のビデオを上映しながらの会食と歓談となりました。

そして、いよいよ私達同窓生の林真理子(高33)さんによる、健康長寿の講演と体操が始まりました。東京で、自ら健康体操マイペースを上げ、長年の指導と経験から語られるお話の内容と明瞭で滑舌の良い言葉に出席者全員が引きこまれました。体操は、手足を動かす簡単なものでしたが、実に楽しい雰囲気会場をつつみました。

「光の子らしく歩みなさい」



という母校の教えを、彼女は健康体操を通じて多くの人達に健康の光を与えながら日々歩んでいると、彼女の講演を聴きながら感じ入った次第です。

最後は出席者一同、校歌を



斉唱しお開きとなりました。今年度は幹事をできる方が非常に少なく、慣れないながらも飯沼支部長をはじめ、諸先輩方に多く助けて頂き感謝の限りです。そして何よりも、出席者の皆様ご参加ありがとうございました。





うございました。

本年度(平成29年)の総会・懇親会は、6月3日(土)東京ガーデンパレスにて開催致します。詳しくは東京支部ホームページをご覧ください。
<http://www.hotelgp-tokyo.com/index.html>

寺原(坂本) 邦子(高33)

福岡支部

まだ残暑厳しい9月10日(土)平成28年度昼食会を今回も西鉄ソラリアホテルで行うことができました。

前々回より御好評をいただ

いておりますミニ講演会には吉津成久先生にお越しいただき、「小泉八雲の『敗者への挽歌』〜愛蘭と八雲と下関をつなぐ〜」という演題で大変貴重なお話を頂戴致しました。皆様学生時代に一気にタイムスリップなさり、それはそれは真剣に時にメモを取りながら深く聞き入っておられる様子がとても印象的でした。

理事長、院長、学長、同窓会長、それぞれのお立場での梅光に対する熱き思いを伺い、卒業生として今出来る事を考



える貴重な時間となりました。

御多忙中お集まり下さいました御姉様方ありがとうございました。44名という支部復活以来最大の御出席を賜り感謝申し上げます。また、御案内の返信にて近況をお知らせ下さいましたり、激励のお言葉を下さいました100名を超える皆様にも重ねて感謝申し上げます。

御姉様方の御健康と梅光の明るい未来を心より願っております。

短日13 打越 悦子

北九州支部

二〇一六年度の支部昼食会は七月十二日(火)門司港ホテルで開催致しました。今回は学院側から中野学院長に加え本間理事長をお迎えし、少し緊張しましたが、そこは梅光の同窓生、各々母校に対する熱い思いを語り合い和やかなひと時を過ごしました。片山宣子新同窓会会長は同窓会のホームページの開設と各支部の充実を当面の課題にこれからの同窓会のあり方を検討して行きたいと抱負を述べ



られました。本間理事長、中野学院長、片山新同窓会長、浜谷前会長を含め三十名の出席。尚、散会後のO氏の呼びかけに三万三千円のカンパが集まりました。感謝して報告致します。

高11 森田 朋子

二〇一七年度(平成29)北九州支部昼食会のご案内

日時 二〇一七年七月二十九日(土)

付 二時〜四時(受付一時半)

会場 門司港ホテル レストラン

会費 四千元

連絡先 電話・FAX (093) 511-5630

森田朋子(高11回)

mtmorita@rapid.ocn.ne.jp
締切 七月十五日

梅光(中高、短大、大学、大学院)の卒業生は北九州以外の方でも受け付けます。

ミニクラス会、同期会としてもお誘いあわせの上、ご参加下さい。

同窓会豊浦・豊北支部会開催のお知らせ

- 日時 2017・9・9(土)
- 時間 12:00受付 開始12:30
- 会費 5,500円(諸経費含)
- 場所 川棚グランドホテル
TEL 083-774-1111
- 問い合わせ先
携帯 090-3172-2208(大澤)
TEL 083-286-5163(梅尾)

同期会

高6

梅光高六女子会

平成28年5月26日、晴れやかな青空の日、各地より同期生33名が集まり「高6 四回目成人式を祝う会」を開きました。

会場は三年前「喜寿を祝う会」の折、一泊しました火の山海峡ビューしものせき。今年は北海道、関東、四国等遠方の方々より体調がすぐれず欠席のお返事を早々と受けま



した。

5月の陽光を受けた紺碧の海峡、関門橋を眼下にし乍ら芸達者の皆さんの余興に拍手、その二時間余りの楽しい時をすごしました。来年もこの時期に再会出来ますようにと名残を惜しみ乍ら各々帰途につきました。

文責 高6 原田 博子

はて?さて?

写真が届いた。喜寿の会があった、それは欠席。それで終わりの思っていたら傘寿の



会を5月にするという。出席に丸。東は千葉、西は鹿児島からの32人。

驚いたことに現役の体育指導員、ダンス教師、舞踊家、商店主として特技を披露。他に詩吟、カラオケなど。最後は校歌、「今日の日はさようなら」を合唱。帰りのバスで名残惜しい人たちがおしゃべりしていたら「あなたたち専用のバスではない」と一人のご婦人に注意されてしまった。次は米寿でねと約束したけれど……。

はて?さて?女のパワーは?

下関市 江熊桃子(80)
毎日新聞山口版ハガキ随筆
6月28日掲載 梅光高6卒

高22・短日6・短英7・

大4

65歳同期会

平成29年5月20日、東京第一ホテル下関で、65歳の同期会を開催しました。還暦同期会での約束を果たすことができました。



この時期、みなさん地域のお世話や、行事などでお忙しく、それでも横浜や、九州などから参加してくださり、4名の先生方を合わせて38名が集いました。

まず、力丸晃先生の礼拝で、会を始めました。「英語の教師だったので」と、聖書の朗読を英語でやってくださいました。当時の授業の様子を思い出し、あつという間にタイムスリップしていました。梶間眞壽美先生の乾杯で会食が始

まり、それぞれのテーブルで懐かしい話に花が咲きました。小山禎子先生や、中尾美恵子先生とも、もともととおしゃべりをしたいと思いながらも、楽しい時間は瞬く間に過ぎていきました。

現在の学校の様子もお伝えすることができました。私たち卒業生にとって、かけがえない大切な母校が続いて行くこと、そして梅光の教え、

二十九年度同窓会総会報告

幹事代表 秋山 和代(大22)

緑深まる気持ちのよい季節を迎え、平成29年5月13日(土)、「梅光学院同窓会総会」が、シーモールパレスで開催されました。昨年の総会は大変白熱したものであり、今年度は総会の更なる充実を図るため、総会と懇親会の会場を分けて行われました。初めての試みに、私たちは当番幹事として、会場案内などがスムーズにできるかどうか不安でした。しかし、今年度は四十代の比較的若い世代も多く参加する中、総会は「ダイヤモン

「光の子らしく歩みなさい」が、これからもずっと受け継がれていくことを願い、最後に校歌を斉唱してお開きにしました。皆、それぞれの場所でも、思いを込めて祈りを届けていきましょう、と話し合って帰路につきました。

次回は未定ですが、またお会いできる日まで、皆さん元気で過ごしましょう。

幹事一同



ドの間」にて約200名の同窓生



にご参集いただき、ほぼ満席の状態が始めることができました。厳かな雰囲気の中、礼拝が行われ、続いて片山同窓



「伝統の重みを引き受けながらも、昨今の時代の現状に合わせた、今の子供たちに必要な力をつけていくための教育に、全力で取り組んでいく覚悟でこの梅光学院に参りました。」

会会長のご挨拶として、現在の同窓会の取り組みの中で、HPの開設、支部の開設の予定などについてご説明いただきました。また同窓生の方からの学校へのピアノの寄贈には、同窓生の学院に対する深い愛情に、感謝尽くせぬ思いを語られました。



2017(平成29)年度 同窓会総会収支報告

収入		支出	
会費	569,000	会場・料理等	576,369
		謝礼5名分	40,000
		招待者分会費	12,000
		総会用郵送料	29,086
		総会ポスター・チラシ	50,760
計	569,000	計	708,215
	-139,215		

という力強いお言葉をいただき、会場は期待に胸膨らむ思いでした。更に「子供たちを育てていくには地域の皆さま、保護者、そして同窓会の皆さまの力が欠かせません。学校にぜひ足を運んでいただいて、生徒達にもぜひ声をかけていただきたい」と同窓会に対する希望も述べられました。また「皆さんがご来室しやすいように、今後は校長室のドアも外そうかと思っております。」などのユーモアも交えたお話に、先生の気さくなお人柄もうかがえ、同窓生の一人として中学高校の今後の発展がとても楽しみな思いでした。続いて今年度の議事として、

2017年度梅光学院同窓会総会報告(事務局より)

2017年度(平成29年度)の梅光学院同窓会総会は200名の出席者があり、総会として成立いたしました。母校のために、たくさんの疑問・意見をいただきました。提議として出された議題について、簡単に報告いたします。

1. 教育基金規定についての件
年間上限を300万円とし、第7条(その他)の項目の言い回しについては、様々な意見を考慮し、文言の手直しをしますが、方向性については異議なしで役員会に一任するという形で承認されました。
2. 同窓会会則変更についての件
旧第11条の項目について、学院に総会の総意を伝えるということで承認されました。
おもな変更点は会長の任期を2年としたこと、臨時総会の開催を可能としたことです。
3. 同窓会会費についての件
同窓会運営費の現状報告と同窓会会費の値上げについて。学院側とも話し合いながら来年決議することを目指すこととする。
4. 傘寿クリスマスプレゼントについての件
クリスマスカード送付についての件
総会出席者の意見としては、さしあげる年齢をあげて、カードのみとする意見が多かった。それを踏まえて、役員会に一任する。
5. 支部活性化についての件
ご協力をお願いします。
6. 会員名簿の発行についての件
「サラト」から来年発行予定。これから問い合わせのハガキなどが届きます。ご協力をお願いします。
7. その他
同窓会誌の簡略化や、総会のお知らせを1か月前くらいにしてほしいという意見がありました。

行事報告・会計報告、そして片山会長より教育支援寄付規定や会則変更、同窓会会費などについての提案(別記)がありました。生徒や学生が減少する一方、学校では様々な修繕や設備にも費用がかかり、同窓会としても協力はしたいと思いつつも、現状としては厳しい部分もあり、今後の資産運用を真剣に考えていか

ねばならない苦しい思いを会長が丁寧に説明されました。同窓生にとっても辛い話ではありましたが、総会に参加された方々からは、前向きな意見が多数出され、昨年同様時間が押してしまいました。しかし、こんなにも梅光学院に熱い思いを持ってくださる同窓生の方々がいる限り、学院や同窓会の様々な厳しい現状



も必ず乗り越えられるものと思える、実のある総会であったと思います。最後に、役員改選では片山会長の再選が承認され、会場に響き渡る拍手の中今年度の総会の幕を閉じました。

総会の盛り上がり之余韻を残したまま、会場を「エメラルドの間」に移し、懇親会が開催されました。まず初めに、映画監督である柴口勲氏より、梅光高校の生徒が作曲、演奏、振り付け、歌などを担当し、40名の生徒が参加したミュージカル映画「隣人の行方」の紹介がありました。この映画は、この夏に新宿、横浜、名

梅光学院同窓会 2017 (平成 29) 年度総会

2017年5月13日(土) 12時30分
会場 シーモールパレス ダイアモンドの間

- I. 総会 (13:00 ~ 14:40)** 司会: 磯谷 由美
・ 礼 拝 奏 楽 林 久代
讃美歌 312 番
聖 書 コリントの信徒への手紙 I.
13 章: 4 ~ 7 節
- ・ 総会開会 祈 祷 安成百合子
司会進行 磯谷 由美
会長挨拶 片山 宣子
来賓挨拶
- ・ 議 事
- (1) 報告 ① 行事報告 岩男 晶子
② 会計報告 (2016 年度決算) 香月 順子
③ 会計監査報告 正木 文恵 梅尾 澄枝
④ 教育基金規定についての件 片山 宣子
- (2) 提議 ① 会則変更についての件
② 同窓会会費 (入会金・終身会費) についての件
③ 傘寿クリスマスプレゼントについての件
④ クリスマスカードと送付についての件
⑤ 支部活動の活性化についての件
⑥ 会員名簿発行についての件
- (3) 役員改選
(4) 新会長挨拶
(5) 2017 年度予算審議 香月 順子
(6) 協議事項 学校・同窓会についてご意見のある方との質疑応答
(7) 当番幹事挨拶 秋山 和代
・ 全員で校歌

- II. 懇親会 (14:15 ~)** エメラルドの間
司会 三ツ川由香
- ◎ 卒業生による演奏会
◇ ピアノ独奏 原田 瞳 (高 48 M 科 20 回)
中江沙緒里 (高 48 M 科 20 回)
有吉さやか (高 48 M 科 20 回)
- ◇ 弾き語り
◎ コール梅光コーラス
◇ 曲名
1. Ave Verum Corpus
救主への祈り モーツァルト
2. みたまのかよえる
讃美歌 34 故佐藤泰正先生訳詞
3. 光の子らしく
♪ 全員でハレルヤ合唱
* 指揮 澄川孝子 (高 23) * 伴奏 田村優子 (高 27 音)
6. 軽食・懇談
閉会 (16:30)

* 2016 年度 (平成 28 年度) 行事報告 *

2016 年

- 4 月 7 日 中高入学式 13:00 ~ (濱谷、磯谷、中川 出席)
4 月 12 日 役員会
4 月 26 日 会計監査 今津敏子 (高 7)
5 月 2 日 役員会
5 月 13 日 同窓会総会 シーモールパレス エメラルドの間
13:00 ~ 16:00 (総会 275 名 懇親会 225 名出席)
(1) 総会 (2) 懇親会 卒業生による演奏会、コー



古屋などで劇場公開され、今年の海峡映画祭でも上演されるそうです。二人の高校生も一生懸命映画の紹介をしてくれました。ぜひ多くの皆さまに鑑賞して頂きたいと思います。その後、高 48 M 科 20 回のお三方による演奏会が行われ、原田瞳さん、中江沙緒里さんのデュオによるピアノ演奏で会場内は一気に盛り上がり、続いて有吉さやかさんの「スーホーの白い馬」の弾き語りでは、臨場感溢れる演奏と語り

に会場は引き込まれていきました。更には「コール梅光」の皆さまの美しいハーモニーと、恒例の「ハレルヤコーラス」では最高潮に盛り上がり、今年度の「同窓会総会」を無事に終えることができました。今回、当番幹事として 10 月よりお手伝いさせて頂きながら、諸先輩方の熱い思いを目標の当たりになし、先輩方に頼るばかりではなく、私たち少し若い世代も、梅光学院そして梅光学院同窓会にもっと心を

寄せていかなければならないと思いました。最後にになりましたが、たくさん皆さまに参加して頂き、また片山会長をはじめ同窓会の方々に支えて頂きながら役割を無事に終えることができました。当番幹事一同、心より御礼申し上げます。また来年も皆さま方にお会いできることを心から楽しみにしております。本当にありがとうございました。



平成28年度会計報告及び平成29年度予算(案)

科 目	28年度予算	28年度決算	29年度予算案
収 入 の 部			
終身会費取崩し	6,124,000	6,382,451	10,141,000
繰 越 金			
入 会 金	608,000	612,000	654,000
会 費	2,000	0	2,000
受 取 利 息	136,000	153,416	73,000
施 設 利 用 料	20,000	14,000	20,000
運 営 費 収 入	3,000,000	2,275,000	3,000,000
雑 収 入	50,000	120,113	50,000
収 入 計	9,940,000	9,556,980	13,940,000
支 出 の 部			
事 務 費	1,600,000	2,076,194	2,200,000
旅 費	200,000	180,840	200,000
通 信 費	1,600,000	2,281,761	2,000,000
印 刷 費	3,500,000	4,020,481	3,500,000
行 事・集 会 費	800,000	627,253	700,000
交 際 慶 弔 費	100,000	243,051	200,000
雑 費	70,000	58,376	70,000
光 熱 水 費	70,000	69,024	70,000
寄 附 金	2,000,000	0	5,000,000
支 出 計	9,940,000	9,556,980	13,940,000
当年度収支差額	0	0	0

貸 借 対 照 表

平成29年3月31日

現 金	210,447	終 身 金 費	89,223,333
預 金	93,804,104	終身会費引当積立金	5,835,894
仮 払 金	1,240,717	仮 受 金	196,041
	95,255,268		95,255,268

上記平成28年度決算及び貸借対照表の会計報告に関して帳簿・証憑書類等を監査致しました。記載事項は事実に基づいており適正であることを認めます。

同窓会監査人

正木文恵

梅尾登枝

- 5月18日 ル梅光コーラス、軽食・懇談
東京支部総会 ホテルモントレ横浜（本間理事長、中野学院長、樋口学長、濱谷、片山、磯谷 出席）
- 6月7日 役員会
6月30日 梅光誌48号発行（佐藤泰正先生追悼記念）
21,000部
- 7月4日 第16回梅光メモリアルデー 13:30～15:00
スタージェスホール
（1）礼拝と賛美 （2）コール梅光 合唱
（3）佐藤泰正先生の思い出
岡田喜久男先生、片山宣子先生
佐藤先生を偲んでDVD上映
- 8月7日 役員会
8月31日 役員会
7月12日 北九州支部昼食会
（理事長、院長、学長、濱谷、片山、磯谷 出席）
- 9月10日 福岡支部昼食会
（吉津成久先生、理事長、院長、学長、平良、梶間、濱谷、片山、磯谷 出席）
- 9月17日 役員会
10月15日 役員会
11月19日 役員会
12月3日 コール梅光15周年記念クリスマス礼拝・チャリティコンサート 生涯学習プラザ「海のホール」
- 12月6日 80歳（高6）の方へクリスマスプレゼント（カード、お茶、お菓子）発送 124名
81歳（高5）以上の方へクリスマスカード発送 835名
- 12月10日 役員会

2017年

- 1月17日 大学卒業新入会員同窓会入会式（卒業準備会の時） 10:40～11:40 226名
（濱谷、片山、磯谷、岩男 出席）
卒業・入会記念品（ふろしき）
- 1月21日 役員会
2月4日 役員会
2月25日 第一回 海峡会 シーモールパレス 15:00～17:00 87名参加
- 2月28日 高校卒業新入会員同窓会入会式 山田記念ホール 64名
卒業・入会記念品（ふろしき）（濱谷、片山、磯谷、畠中、岩男 出席）
- 3月1日 高校卒業式 10:00～
（濱谷、片山、磯谷 出席）
- 3月11日 中学卒業式 10:00～
（濱谷、片山、磯谷 出席）
- 3月18日 役員会
3月25日 大学・大学院学位記授与式（濱谷、片山、磯谷 出席）

本支援寄付の管理・運営は同窓会役員会が次の各号に従って行う。

- （1）役員会は学院より申し出を受けた200万円以上の支援寄付の使用について、その内容を協議し総会に諮らなければならない。
- （2）役員会は支援寄付の使用状況について、学院から活動報告・収支報告を受けなければならない。
- （3）役員会は1年度内の支援寄付の総計を、原則として300万円以内としなければならない。
- （4）前号の金額は総会の決議を経て見直すことができる。

第六条（経理）

本支援寄付の経理は同窓会特別会計で、一年度限りのものとする。使用されない予算は同窓会経理に戻すものとする。

第七条（その他）

本規約に定めない事項が生じた場合、その処置について役員会で協議し方法を決定する。また、役員会が必要と認めた事項は総会決議に委ねる。

（付則）

- （1）この規約は2016年（平成28年）5月14日の総会で提案された同窓会教育基金寄付金の取り扱い事項を規約化したものである。
- （2）この規約は2017年5月13日の総会決議を経て、名称を改め、同年5月14日から施行される。

梅光学院同窓会教育支援寄付規約

第一条（設置・名称）

梅光学院同窓会に同窓会教育支援寄付規約（以下「支援寄付」という）を定める。

本寄付は梅光学院同窓会（以下「同窓会」という）教育支援寄付と称す。

第二条（目的）

本支援寄付は学校法人梅光学院の設置する教育機関の園児・生徒・学生（以下「学生等」という）の教育支援に資することを目的とする。

第三条（事業）

支援寄付は第二条の目的を達成するために次の各号に掲げる事業に協力する。

- （1）学院が設置する学校の学生等への奨学金・課外活動助成・表彰・海外留学支援等の支援授業
- （2）社会、地域、卒業生、同窓会等との連携・公開講座・講演会の開催等の社会連携事業
- （3）その他役員会が認める、学生等に必要の支援で支援寄付の趣旨に合致する事業

第四条（原資）

本支援寄付は次の資金を原資とする。

- （1）同窓会からの繰入金

第五条（管理・運営）



り同窓会の発展に寄与する

4. 学年幹事会

会長の招集により実施し、それぞれ同学年の連絡・交流をはかり同窓会の発展に寄与する

第7条 役員の任期

会長 任期を2年とし、総会において選出する。留任は原則2期までとする。選出の任は選挙管理委員会にゆだねる。
役員 任期を原則1年とし、留任を5年まで妨げない。選出は会長に委任し、会長は就任後30日以内に選出し、会誌またはホームページにて公開する

事務局員 会長の委嘱により選任する。任期は特に定めない

第8条 役員の仕事・旧第7条に7・8として次を付加する

7. 庶務はホームページの運営や様々な実務を執り行う

8. 顧問は学院の代表者で、相談役として委嘱する

第9条 総会

1. 毎年原則5月に総会を開催し、予算・決算・会則改正・会費改定・必要な役員選任・その他必要な事項を決議する。決議は出席者過半数の賛成を要する。

2. 総会成立の定員数は100名とする。

3. 役員会が必要と認めた時、又は会員の1000名以上の要求があった時、会長は臨時総会を招集しなければならない

第10条 経費

本会の運営に必要な経費には、会費・寄付・その他の収入をあてる

1. 会員は学院卒業時に本会に入会し、入会金・終身会費を納入する。

2. 会員は毎年の運営費寄付にできるだけ協力し同窓会を支援する。

第11条 会計年度 旧第10条 変更なし

第12条 評議員 旧第11条

第12条 補則

この会則は平成29年6月14日から施行する。

梅光学院同窓会会則 変更箇所

(来年の会員名簿に正式な会則を掲載します)

第1条 名称

本会は梅光学院同窓会と称し、本部を下関市向洋町一丁目1番1号梅光学院内に置く。

第2条 目的

変更なし

第3条 事業

変更なし

第4条 会員

変更なし

第5条 組織・構成

本会には下記の組織・委員を置く

1. 本部役員会

・名誉会長・会長・副会長・役員(大2・短2・高2名)・事務局委員で構成する
・学院長もしくは学院長が選任した1名は顧問として役員会に陪席できる
・会長が審議事項に関して必要と認めた者は役員会に陪席できる

2. 本部事務局

名誉会長・会長・副会長・事務局委員(書記・会計・庶務)で構成し、定員は10名以内とする

3. 支部会

支部代表者と支部会員で構成される

4. 学年幹事会

入会時に決定された学年幹事で構成される

5. 会計監査人

2名以内

第6条 組織の任務

1. 本部役員会

同窓会の行事・催事など本会の目的を遂行するために会長よりの諮問を受け審議決定を行う

2. 本部事務局

役員会の決定に従い、会長を助け事項の推進・実現をはかり、日常的な同窓会事務を行う

3. 支部会

支部長・支部役員を中心に、支部会員相互の交流をはか

同窓会入会式あいさつ

「光の子として」

このたびは、私たち普通科69回生、音楽科41回生のために、このような式を執り行っていたいただき、まことにありがとうございます。私たちは、梅光学院で三年間または六年間神様とともに過ごしてきました。その中で聖書に書いてある神様の御言葉に触れ、人を思いやる気持ちや物事の考え方などたくさんこのことを学びました。私はその中でもマタイによる福音書の7章7節「求めなさい、そうすれば与えられる。捜しなさい、そうすれば見つかる。門をたたきなさい、そうすれば開かれる」という聖句で、私自身考え方が変わりました。この聖句に出会って、何事も待つのではなく、自分からつかみにいくという姿勢を持つようになり、高校生活が充実したのになりました。私だけでなく、梅光に入学した私達は、みな聖句によって助けられたり、変わるきっかけになった

り、聖句からたくさんのお話を学んできました。そんな私たちも、進学・就職、みな別々の道に進みます。ですが梅光で学んだたくさんのお話と、梅光の同窓生としての誇りを胸に、これからも光の子として歩んで行きたいです。まだまだ人として未熟な私たちです。諸先輩方の叱咤激励が必要ときもあると思います。その時は、どうぞよろしくお願いいたします。

高校卒業生代表

上野みのり

「同窓会入会にあたって」

皆さん初めまして。平成28年度同窓会文学部日本文学科幹事を務めさせていただきました大山慧です。

新生活がスタートし、私はとても充実した毎日を送っています。皆さんはどうですか？きっと新しい環境の中で辛いこともたくさんあると思います。そんな時に思い出し、欲しいのが、梅光学院大学

と一緒に過ごした友人たちのことです。

私は現在初めての一人暮らしを経験しています。それに加えて研修や新しい土地等、知らないことだらけの中で生活しています。時には心が沈んでしまうこともあります。が、なんとか楽しく過ごしています。私が楽しい毎日を送られているのには、大学の友人たちの存在が大きくあると感じています。ふとした時に連絡したり、休みの日には遊びに行く計画を立てていたり。何気ないところで心の支えとなってくれています。

皆さんが過ごしている環境は様々で、なかなか全員のことを知ることはできません。しかし、親しい友人のことが知ら知っているはず。時に励まし、時に励まされる。そんな素敵な関係を保ちつつ、私自身も含め、皆さんが社会人として大きく成長できることを願っています。

大学卒業生代表

大山 慧



「同窓会事務局から」

梅光学院同窓生の皆様には、同窓会運営費の納入をはじめ、同窓会活動に関心をもって見守って頂きありがとうございます。梅光学院同窓会事務局では、毎年、同窓会総会の準備をし、同窓会誌「梅光」をお届けするだけでなく、さまざまな活動をしています。その一つがクリスマス時期に80歳以上の同窓生の皆様にクリスマスカードを、その年に80歳を迎える皆様にはクリスマスカードと心ばかりのプレゼントをお送りすることです。

・「今日は、可愛い妹の方々のハレルや合唱のカードをお送りくださ

いまして心より嬉しくお礼を申し上げます。」

・「このたびは思いがけず記念のお菓子をを送りくださりありがとうございます。記憶力も衰えてきておりますが梅光時代の思い出だけはいつも鮮やかに蘇っております。」

・「母校より80才のプレゼントは、とても嬉しく温かい気持ち広がってきました。ありがとうございます。」

・「きよしこのよる」が聞こえるお写真嬉しゅうございました。」

訂正

昨年度、48号「梅光誌」の濱谷前会長の挨拶文に事実誤認があると学院から厳しいご指摘がありました。学院からの申し出に従い訂正します。

本文「退職勧奨を行い、否応なしに辞表を提出させるような非情な方法をとりました。」

訂正「希望退職を募り、手厚い待遇を実施し経営の健全化を行った。」

(事務局)

お詫び

昨年度総会に於いて時間不足の為、質疑応答ができなかった質問に関する答えをホームページにて報告することにしておりました。再三にわたり、回答をお願いしましたが、未だ頂くことができず、約束を果たせなかったことをお詫びします。

(事務局)

・「このたびは80歳を迎えたことに対し格別のご配慮くださり、素敵なプレゼントを賜り、ありがとうございます。男女共学の学校になり、梅光学院がますます発展されますよう祈っております。」

先輩方に喜んでいただいていたことが、お声や文面から伝わってきて、事務局一同、大変嬉しく、梅光生としてのつながりを感じ、温かい思いに満たされました。これからも梅光ファミリーの絆をつないでいけるように、事務局の仕事を進めてまいります。よろしくお願いいたします。

2016年度
運営費寄付者名

単位千円

2016.4.1～2017.3.31までの受付
ご支援を感謝します。

高4	中野實子(異義田) 3	梅34	福田百合子(山本) 3	梅29	前田喜美子(増田) 3	旧職	中山 敦 3	2016年度	
高4	豊田篤子(石川)30	梅35	松成叡子(松成) 9	梅29	八木良子 9	旧職	向山淳子 3	運営費寄付者名	
高4	猿渡由子(熊野) 3	梅35	中山玲子(南) 3	梅30	大房敦子(斎藤) 3	旧職	西田 昇 3		
高4	山木重子(山木) 3	中 3	福田雅子(大社) 3	梅30	菊池トヨ子(福永) 3	旧職	富永恵美子 3		
高5	横田真弓(有川) 3	中 3	越島俊子(東) 3	梅30	柴崎トキ子(松村) 3	旧職	菊地 昇 3		
高5	飯田雅子(有村) 3	中 4	山名しづか(樽見) 3	梅31A	平賀協子(平賀) 3	旧職	樋口千重子 3	旧職	河田 修 3
高5	三代 緑(一色) 3	中 7	白石充代(米谷) 3	梅31A	英 玉得(福岡) 3	旧職	安富恵子 10	旧職	巻幡清子 3
高5	小川和子(稲田) 3	高 2	大社淑子(大社) 3	梅31A	森 麗子(森) 3	梅23	清水公子(伊藤) 3	旧職	宮野祥子 9
高5	北村勝代(大浜) 3	高 2	児玉光恵(河村) 3	梅31B	野田馨子(赤司) 9	梅24	百崎良子(浅田) 3	旧職	青木紀雄 3
高5	大河原愛子(沖田) 3	高 2	岡田佳津(原田) 3	梅31B	久保田捨子(木下) 3	梅24	中村豊栄(野口) 3	旧職	木村昌子 3
高5	勝田ツタエ(金子) 3	高 2	内山ナミ子(三宅) 3	梅31B	池田祝子(崎本) 3	梅24	長谷川裕子(平山) 3	旧職	斎藤直而 3
高5	久木田紀子(久木田) 3	高 3	大塚篤子(阿美谷) 3	梅31B	重友照恵 3	梅25	中山幸子(藤井) 3	旧職	斉藤小百合 33
高5	小林茂子(小林) 3	高 3	山口峯子(飯田) 3	梅31B	武久禮子(武久) 3	梅27	俣野八重(青木)10	旧職	柴崎照夫 3
高5	三木玲子(佐伯) 9	高 3	伊藤由貴江(小川) 3	梅31B	阿部敬子(富田) 3	梅27	北森捨子(小山) 3	旧職	白沢千枝子 3
高5	折口恵子(酒井) 3	高 3	上垣内照子(上垣内) 3	梅31B	白井許子(西村) 3	梅27	川本アヤ子(田中) 3	旧職	宮本幸治 3
高5	重中美蓉子(重中) 9	高 3	森 美代子(国本) 3	梅31B	中村 馨(藤井) 6	梅27	宮崎百合子(田中) 9	旧職	清末義和 3
高5	富田芳子(島崎) 3	高 3	熊沢郁子 3	梅31B	吉武裕子(山口) 3	梅27	鈴木澄子(中野) 3	旧職	小山禎子 3
高5	勝岡光子(墨崎) 3	高 3	西田久寿世(日高) 3	梅33	植田益江(宮崎) 3	梅28	矢野勝子(中村) 3	旧職	峠口 新 60
高5	平良美代(平良) 100	高 3	安田美智子(平野) 3	梅33	吉松多恵子(和田) 3	梅29	古賀達子(古賀) 3	旧職	小松咲佳 3
高5	大黒かよ子(十河) 3	高 3	山村喜久子(山村) 3	梅34	貴船春美(野田) 3	梅29	村上美代(船岡)30	旧職	岩本康子 3



短日1 谷川百枝(山本) 3	高24 村田小夜子(今橋) 3	高14 岡 菊子(木下) 3	高9 池田節子(富永) 3	高5 藤井美保子(松田) 3
短英2 本村真理子(金子) 3	高24 城一道子 3	高14 白須美砂子 10	高9 谷 禎子(西村) 9	高5 石部文江(松原) 9
短英2 古金なほみ(兼行) 3	高24 古本圭子(唯岡) 3	高14 井関久江(関) 3	高9 横山佐治子(藤本) 3	高5 村上清子(山本) 3
短英2 小原政子 20	高25 泉 直美 3	高14 豊田幸子 3	高9 和田加代(宮内) 3	高5 永露道子(横井)10
短日2 伊藤幸恵(武波) 3	高25 中野文子(植田) 3	高14 西田ヒロミ(中川)10	高9 宮原克子(宮原) 3	高6 中野智子(伊藤) 9
短日2 宮原美智子(谷口) 3	高25 吉田真子(藤田) 3	高14 大嶋昌子(鍋田) 6	高9 近藤玲子(吉野) 3	高6 西田小夜子(後) 3
短日2 畠中節子(中島(大村)) 3	高26 西尾朋代(柴崎)15	高14 岡崎郁子(西川) 3	高10 前田勝美(天川) 3	高6 空申弘子(大野) 3
短日2 宮崎純子(中畑) 3	高27 佐伯寿代子 3	高14 田中安子(吉本) 3	高10 越智靖子(荒木) 3	高6 上笹ノブ(柿元) 3
短英3 杉山和加子(荒井)10	高27 上田節子(福永) 3	高15 桑野宏子(磯部) 3	高10 嶋野恵子(石田) 3	高6 沼田寿子(金ヶ江) 9
短英3 棚部幸子(石田) 3	高27 鈴木智子(柳井) 6	高15 山口美紗子(今村) 3	高10 市河純恵 3	高6 正井満里子(坂川) 9
短英3 津田千鶴子(植田) 3	高27 横田のぞみ(山中) 3	高15 鈴木和子(岡) 3	高10 児玉安子(公家) 3	高6 田中和喜子(坂本) 3
短英3 野邑千代子(千々松) 3	高27音 村山紀子(小木) 3	高15 三井美枝子(近藤) 3	高10 藤井信子(鈴木) 3	高6 堀本寿恵(管) 3
短英3 山本光子(松倉) 3	高27音 田村優子(真野) 5	高15 中野寿子(末村) 3	高10 中川泰子(中川)12	高6 大和明美(中尾) 3
短日3 松村和代(堀江) 3	高28 濱野恵子 3	高15 浴本泰子(藤山) 9	高10 三好久美代(中野) 6	高6 中本光子(樋口) 3
短英4 田淵れい子(石若) 3	高28 波多江登喜子(林)10	高15 鬼頭幸枝(古谷) 3	高10 田中美紗子(長尾) 3	高6 奥田美沙子(久野) 3
短英4 境 久留美(岡) 3	高29 佐藤久美(林) 3	高15 大津恭子(松下) 9	高10 浜谷静枝 30	高6 東原美智子(藤井) 3
短英4 大野美加子(益森) 3	高30 川崎晴実(上田) 3	高15 有富洋子(村上) 3	高10 三原信恵(山本) 3	高6 井山陽子(藤田) 3
短日4 柏谷登志子(櫻木) 3	高30 山本 弘子(福原) 3	高16 樋口武子(大空) 6	高11 吉谷延子(栗屋) 3	高6 井川富美子(政本) 3
短日4 西村佳代(川村) 3	高30音 明田恵美(四方田) 3	高16 竹中淳子(大西) 3	高11 久森富子(井本) 3	高6 山本寿美江(山村) 3
短日4 喜嶋真理子(嶋村) 3	高31 吉岡 文(大草)10	高16 秋津博子(金近) 3	高11 森田朋子(岡崎) 3	高7 高本道子(秋本) 3
短英5 河又洋子(家吉) 3	高32 岩男晶子(鍋島) 3	高16 新納郁江(五島) 3	高11 内藤美也子(佐野) 3	高7 中田百合恵(安部) 3
短英5 河崎百合子(坂本) 3	高32音 中前美和子(吉村) 3	高16 井町豊子(布村) 3	高11 吉永英子(高橋)10	高7 今津敏子 6
短日5 大西恵子 3	高33 大上純子(西村) 3	高16 大原恭子(長谷川) 1	高11 瓜田正子(竹内) 3	高7 齊木洋子(岡崎) 3
短英6 宮川悦子(千々和) 3	高33 北村由美子(吉原) 3	高17 田中展子(石田) 3	高11 堀内紀代子(立石) 3	高7 岡野弘子 30
短英6 手島千恵子 3	高33音 柳澤佳子(三田) 3	高17 岡崎英子(菊谷) 3	高11 木村正恵(中島) 6	高7 長井敏子(角野) 3
短日6 福永芳枝 3	高34 石原陽子(本田) 3	高17 斉藤静江(寺下) 3	高11 桐村亘子(松田) 3	高7 大波トクヨ(兼子) 6
短日6 藤垣洋子(和気) 3	高34 鈴木理恵(増山) 3	高17 前田笙子 3	高11 渡辺紀子(山崎) 3	高7 柏木紀子(熊井) 3
短英7 梶原淑枝(稲井) 3	高37音 白石昭子(古賀) 3	高18 宮原民子(相沢) 3	高12 熊井満栄(秋枝) 3	高7 橋本麗子(寄本) 3
短英7 西嶋和江 3	高38 津田里美(来島) 3	高18 寺沢美恵(市倉) 3	高12 亀井緯子(有馬) 3	高7 中野由己子(高橋) 3
短英8 川端佳子(梅田) 3	高38 稲岡昭子(黒瀬) 3	高18 前田優子(藤中) 3	高12 和田礼子(石黒) 3	高7 田中麗子 3
短英8 浜 祐子(瀬戸崎) 3	高40 山中弘子(安部) 3	高18 中野幸子(村山) 3	高12 増富美那子(小林) 3	高7 田中彰子(長谷川) 3
短日8 幡吉眞弓(森川) 3	高41 波多野容子(大司) 3	高19 赤川伴子(小田)13	高12 坂本保子 3	高7 碓崎珠江(三原) 3
短日8 宮崎悦子(渡辺) 3	高41 桜井敬子 3	高19 坂本久美子 3	高12 下野豊美(田中) 3	高7 三輪節子 3
短英9 三井順子(国本) 3	高43 植田みどり(梶間) 6	高19 高田恵美子(界地)30	高12 植木昌子(永松) 3	高7 行村君子(村岡) 3
短英9 竹内節子(久保) 3	高48音 有吉さやか(森田) 3	高19 上部長光(白石) 3	高12 村田友子(藤田) 3	高7 清水玲子(山崎) 3
短英9 林 加代子 3	高50音 木下綾子(浜野) 3	高19 川崎素子(中川)30	高13 古川綾子(安心院) 3	高7 福田比呂子(山下) 3
短英10 永井妙子(今永) 3	高51 小川麻紀子 3	高19 山本 緑(西村) 6	高13 赤星悠紀子(上野) 3	高8 有松尚美(河野) 3
短英10 国本香子(小林) 6	高54英 兵頭美佳(久末) 3	高19 森本洋子 3	高13 権藤市津代(木村) 3	高8 山本洋子(小西) 3
短英11 深堀尚子(平野) 3	高57 松本由希 3	高19 松田ちづこ(山中) 3	高13 山崎幸子(木村) 3	高8 金子高子(末藤) 3
短英12 上田秀子(井関) 3	高58 大方 忍 3	高20 名切都子(荒川) 6	高13 橋本陽子(木村) 3	高8 松本節子(鳥居) 3
短英12 松本恵子(岡村) 3	高60 安富 遥 3	高20 佐藤敏枝(児島) 3	高13 谷口アサ子(坂川) 3	高8 中蘭桂子(中本) 3
短日12 五輪喜久子 3	高61音 吉田瑞紀 3	高20 大久保礼子(児玉) 6	高13 岡村洋子(下川) 3	高8 柿原裕子(南) 3
短日12 末次啓子(内田) 3	高63 村岡ちひろ 3	高20 中野歌子(下野) 3	高13 副島左千子(中島) 3	高8 久保英子(村上) 6
短日12 塩満美子(細山田) 3	高65 上原佑美子 3	高20 安成百合子(竹田) 3	高13 前田廣子(西島) 3	高8 中島節子(吉田) 3
短英13 吉崎京子(仲井) 3	高65音 池田佳奈子 3	高20 富永サヨ子(藤本) 3	高13 河上邦子(林) 3	高9 小園美智子(池田) 3
短日13 打越悦子(倉益) 3	高68 松永佳子 3	高20 村上美枝 3	高13 村馬恵美子(福原) 3	高9 桑原京子(大村) 3
短日13 行本京子(芝田) 3	短英1 宮佐充子(赤川) 3	高21 宗岡展子(今村) 3	高13 赤城晴美(藤井) 3	高9 藤岡都美子(河田) 3
短英14 鎌田敬子(倉岡) 3	短英1 中野孝子(北郷) 3	高21 杉本初果(宇山) 3	高13 続木千加代(船津) 3	高9 安藤清子(菊谷) 3
短日15 島崎千代子(古川) 3	短英1 鈴木頼子(坂口) 3	高21 金沢寿榮子(富下) 3	高13 三塩明美(増本) 3	高9 田中浩子(倉田) 3
短英16 内田節子(高須) 3	短英1 阪本和子 6	高21 飯沼菜保美(山村)30	高13 水本篤子 3	高9 日置恵子(高橋) 3
短日16 山口伸子(堅田) 3	短日1 井上聡子 3	高22 小川信子(河内山) 3	高13 石川尚子(宮崎) 3	高9 田村千世子(田中) 3
短日16 樽本久美(藤原) 3	短日1 縄田純子(園田) 3	高23 中尾和子 3	高14 井口千鶴子(宇土) 3	高9 松岡郁子(田原) 3



大46日 山崎美貴 3	大20語 山本恭子(中村) 3	大12英 河合津奈恵(河合) 3	大1英 熊谷豊子(河野) 3	短英17 岡村明子 3
大46子 麻生峻介 * 3	大22日 田中裕子 3	大12英 藤岡利恵(田村) 3	大1英 宝辺静子(久保) 3	短英17 白石みゆき(児倉) 3
院前日2 澤田雅子(北村) 3	大22日 山本朋子(原田) 3	大12英 林田恭子 3	大1英 饗場英子(近藤) 3	短英17 山口立子 3
院前英3 来見田恵子 3	大22日 田中純子(松田) 3	大13日 安東純子(河崎) 3	大2英 石田邦子(神西) 6	短日17 松尾香織(山下)30
院前英7 広岡淳子(中村) 3	大24日 豊田芳春 3	大13日 三浦美香子(武石) 3	大2英 向野泰子(田島) 3	短英18 原 由紀子(中山) 3
院前日9 山崎ひろ代 9	大25英 中尾香代子 3	大13日 宮田史子(原) 3	大2英 松尾マツ子(平山) 3	短英18 石川淳子(長友) 3
院前日10 澤山淑子 3	大26英 宇都宮英里子(坂本) 3	大13英 滝本あい子(滝本(小田部)) 3	大3英 山本洋子(湊) 3	短日18 野田増美(成元) 3
院前日15 久保田智栄子(今井) 3	大27日 三井靖子(桜井) 3	大14日 諫山貴子(青柳) 3	大4日 志保みはる 3	短英19 渡辺智美 3
院前英15 平中美砂(野原) 3	大27日 板倉由美子(蘇村) 3	大14日 紺屋はるみ(徳永) 9	大4日 大形京子(東野) 9	短英20 井上悦子 3
院前日21 柳原暁子(林) 3	大29英 吉村智子(村山) 3	大14英 和田知子(上野) 3	大4英 篠塚玲子(寺井) 3	短英20 植竹里佳 3
院前日27 川藤良子 3	大36英 後根寧子 3	大15日 中嶋まどか(二田水)10	大4英 大寺和美(前田) 3	短英20 三浦美香(田尻) 3
院前日28 川野真帆 3	大39子 種田恭子 3	大15日 安藤壽恵(松田) 3	大5日 菊田洋子(中村) 3	短英22 野栄陽子 3
院後日8 川口 香(那須) 6	大40日 梅田順子 3	大15英 田中文代(寺田) 3	大5英 三桥英子(十時) 3	短日22 鈴木直美(河崎) 3
会友 藤田尚子(上杉) 3	大40英 石田真美 3	大16日 梶原理佳子(大久保) 3	大6日 平川典子(神峯) 3	短日22 古谷かおり 6
会友 飯塚友子(木坂) 3	大40子 三隅泰乃 3	大16日 野見山百葉(末松) 3	大6英 郡司島節子(立岩)10	短日23 盛永早苗(志岐) 3
会友 深谷邦子(玉置) 3	大41日 高柳真理子(中道) 3	大16日 永田真理(其木) 3	大7英 香月順子 50	短日23 和田裕子(藤井) 3
会友 芝 保子(山上) 3	大42英 横田有香 3	大16日 河口奈緒美(西村) 3	大7英 村中奈保美(柴田) 3	短日24 檜橋聖子(下川) 3
	大45日 岡村紀枝 3	大16日 植月明美(山下) 3	大7英 磯谷由美(林) 10	短日24 宮下ひろみ 3
高6同期会一同 20	大46日 岸田早希 3	大16日 小川滋子(山本) 3	大日8 中道順子(衛藤) 3	短英27 小林智亜紀 3
		大16日 土河美枝子(吉本)10	大日8 野村育子(永井) 3	短日27 吉松美絵(阿部) 3
		大16語 稲葉千草(酒井) 9	大英8 大本美智子(江崎) 3	短日27 中村真理子(市村) 3
		大17英 牧角美和(肥山) 3	大日9 富田栄子(國米) 6	短英28 佐々木理子(石川) 3
		大18日 梅崎久美子 3	大日9 松岡純代 12	短英29 小野佳子(江藤) 3
		大18語 江後紀久子 3	大日9 山田幸子 15	短日29 伊藤麻里(菅) 3
		大18語 河野行子(藤田) 3	大英9 小川直子(石松) 9	短日29 野中美和 3
		大19日 小川知華(鳥袋) 3	大英9 池田由美子(原) 3	短英30 中島暁子(溝口)10
		大19日 荒木倫子(三村) 3	大10日 若山邦美(榎) 3	短日30 濱崎典子(明知) 3
		大19語 畠中由紀(伊藤) 3	大10日 緒方美佐子(安崎) 3	短コ2日 中村容子 3
		大19語 原田祥子 3	大10英 城下弘子(中川) 3	大1日 片山宣子(清川)30
		大20日 大森亮子 3	大12日 黒崎るみ(新川) 3	大1日 宮内和子(桜田) 3

卒業生総数	
梅ヶ崎	150
光城	80
梅光(旧制)	2,413
高・中	13,418
短大	13,996
大学・大学院	9,264
計	39,321
2017.3.31 現在	

下関開学100年記念事業
決算報告とお礼

2014年度から下関開学100年を迎えて実施された様々な記念事業も、2017年3月の「梅光学院下関100年史」の発行をもって終了しました。この間、大変多くの同窓生の皆様から大きなご支援を賜りましたことを、心より感謝申し上げます。

つきましては、記念事業に関わる決算報告を次の通りいたしましたので、ご確認ください。

い(2017年3月の理事会で承認済)。今年度は大学が開学50年を迎えます。新しい大学づくりに努力を重ねる教職員・学生のため、また、島田新校長のもと、学ぶ喜びに満ちた学校づくりの進む中学・高校のため、物心両面でのご理解とご支援を引き続きお願い申し上げます。(中野新治記)

梅光学院下関開学100年
記念事業募金お礼

下関開学100年記念事業募金は、2011(平成23)年5月1日より開始され、2014(平成26)年3月末日をもって終了いたしました。

1914年以来、建学の精神を貫き、地域に愛され支えられた母校の100年の歴史と伝統に感謝と誇りを持ち、さらなる発展を祈り、ご協力・ご支援いただきました皆様に心よりお礼を申し上げます。

お陰様で同窓生(1258名)より12,486,828円を、同窓会積立より10,000,000円寄付い



たしました。有難うございました。

様々な記念行事・式典が感謝と喜びのうちに行われました。その一つに歴代学院長（ヘンリー・スタウト、服部章蔵、広津藤吉、V・M マツケンジ、広津信二郎）顕彰陶板碑が、丸山キャンパスに建立されました。また毎朝礼拝を守った講堂は「広津信二郎記念講堂」として顕彰されました。記念出版物「梅光学院下関100年史」の刊行は大きな喜びです。

大変な社会情勢・教育環境の中で、スクールモットー「光の子らしく歩きなさい」の教育理念が少しも揺らぐことのないよう、今後とも希望と忍耐と祈りをもってご支援くださいますようお願い申し上げます。

お礼を申し上げるのが遅くなりましたことお詫び申し上げます。

有難うございました。感謝を込めて重ねて深くお礼を申し上げます。

2017（平成29）年3月31日

梅光学院同窓会

顧問 浜谷 静枝
会長 片山 宣子
役員一同

下関開学100年記念事業 募金収支状況（平成23年度～平成28年度）

2017年3月27日 総務部

平成23年度

単位 円

収入	
項目	金額
寄付金	23,470,500
収入合計	23,470,500

支出			
対象校	支出対象事業	金額	備考
中学校・高等学校	マッケンジー館授業支援システム導入	6,518,535	事業総額 9,446,535 円の内、2,928,000 円は私立高等学校等 IT 教育設備整備推進事業補助金対象経費
支出合計		6,518,535	

平成24年度

収入	
項目	金額
前年度繰越額	16,951,965
寄付金	20,891,670
収入合計	37,843,635

支出			
対象校	支出対象事業	金額	備考
幼稚園	幼稚園多世代駐車場舗装事業	2,270,000	
大学	スタージェスホール音響機器整備事業	2,557,212	
中学校・高等学校	本館新館階段外灯設置事業	347,550	
中学校・高等学校	校名変更建物壁面門柱プレート制作事業	826,875	
大学	マルチメディア教室基盤システム導入	30,523,700	事業総額 50,036,700 円の内、19,513,000 円は私立学校施設整備費補助金対象経費
支出合計		36,525,337	

平成25年度

収入	
項目	金額
前年度繰越額	1,318,298
寄付金	11,202,298
収入合計	12,520,596

支出			
対象校	支出対象事業	金額	備考
中学校・高等学校	視聴覚教室整備事業	3,393,150	事業総額 6,786,150 円の内、3,393,000 円は私立高等学校等 IT 教育設備整備推進事業補助金対象経費
中学校・高等学校	電子黒板タブレット端末導入事業	3,330,150	事業総額 6,660,150 円の内、3,330,000 円は私立高等学校等 IT 教育設備整備推進事業補助金対象経費
支出合計		6,723,300	

平成26年度

収入	
項目	金額
前年度繰越額	5,797,296
寄付金	11,103,000
収入合計	16,900,296

支出			
対象校	支出対象事業	金額	備考
大学	東館空調設備改修事業	27,972,000	山口合同ガス
支出合計		27,972,000	

平成26年度、平成28年度

収入	
項目	金額

支出			
対象校	支出対象事業	金額	備考
全学院	記念事業総額	14,949,254	記念行事及び下関100年史（1300部）

A 寄附金収入総計
¥66,667,468

2017年3月14日収支差額 A - B -26,020,958 B 支出総合計 ¥92,688,426

※上記のように一連の事業を実施したため、赤字決算となっている。



梅光学院下関開学100年記念事業寄付金
(平成23年度～平成26年度) 金額集計決算表

総務部

- ・ 下関開学100年記念事業寄付金 目標額1億円
- ・ 2011年(平成23年)度5月1日(募集開始)から2014年(平成26年)度3月31日(募集終了)まで4年間の募金総集計表である。
- ・ 件数(人数)の注記:この一覧の件数(人数)は、各年度の寄付者数を集計したもので1,596件であるが、複数年の寄付者をつつにまとめた実人数総合計数は1097件(名)

下関開学100年寄付一覧 平成27年5月25日集計

名称	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	総件数	総金額¥
同窓生	376	3,490,500	276	3,035,670	345	3,552,658	261	2,408,000	1,258	¥12,486,828
大学保護者	1	1,000,000		0	8	45,000	7	45,000	16	¥1,090,000
中高保護者	0		0		1	100,000	0	0	1	¥100,000
幼保護者	0		0		0		1	5,000	1	¥5,000
P T A	1	500,000	1	500,000	1	600,000	1	600,000	4	¥2,200,000
大学保護者会	3	4,500,000	1	4,500,000	2	5,000,000	1	5,000,000	7	¥19,000,000
梅光学院同窓会		0	2	10,000,000		0		0	2	¥10,000,000
企業	28	9,060,000	1	320,000	8	423,000	1	2,000,000	38	¥11,803,000
理事・評議員	6	1,500,000	0	300,000			1	10,000	7	¥1,810,000
現職(教職員)	138	2,264,000	15	1,776,000	5	515,000	6	355,000	164	¥4,910,000
旧教職員	17	141,000	13	130,000	24	426,540	17	180,000	71	¥877,540
その他	10	1,015,000	8	330,000	4	540,100	5	500,000	27	¥2,385,100
総合計	580	23,470,500	317	20,891,670	398	11,202,298	301	11,103,000	1,596	¥66,667,468

募金総額 ¥66,667,468

下関開学100年記念行事関係 2017/3/27

平成26年度			
月 日	事業(行事)内容	実績額	備 考
5月30日(金)	再現晩餐会下関グランドホテル	会費制	5/30、6/5実施 費用を差し引いた残額14万円を市内養護施設に寄付
○ 顕彰碑及び広津信二郎記念講堂関係			
6月5日(木)	顕彰碑除幕式		丸山町キャンパス玄関前 除幕式 9:00～
10月15日(水)	広津信二郎記念講堂		
	顕彰碑除設置関係	¥4,990,256	
	広津信二郎記念講堂金属プレート板設置	¥224,100	
○ 開学記念式典関係			
6月6日(金)	梅光学院中高生徒向け 姜尚中氏講演会		講師:姜尚中氏
6月6日(金)	梅光学院下関開学100年記念講演会		19:00～ 一般対象下関市民会館 大ホール 講師:姜尚中氏
6月7日(土)	梅光学院下関開学100年記念式典 参加 約1,300名		11:00～ 下関市民会館 大ホール 講師:姜尚中氏
	旅費交通費関係	¥146,623	講師、招待者の旅費等を含む
	広報(ポスター)、式典案内状、会場看板等	¥857,688	
	記念式典経費(会場費、講師謝礼、事前準備等)	¥1,397,157	
○ 記念式典レセプション			
6月7日(土)	記念式典レセプション 会場費、食事代 236名	¥1,113,345	シーモルパレス(エメラルドの間) 13:30～15:30
○ 記念品			
	風呂敷 在学生用ハンドタオル	¥2,336,020	式典参加者・教職員=風呂敷 在学生=ハンドタオル
○ 100年記念シンポジウム			
10月14日(火)	梅光学院下関開学100年記念シンポジウム (S・ホール)	¥276,539	13:20～15:30 パネリスト:イナムシク氏、学院長、学長、学生
○ 学生企画			
9月5日～7日	卒業生書道課程 書道展	¥100,000	下関市民会館 展示ホール 9月5日(金)～7日(日)
9月～10月	中高 廣津藤吉記念図書館 100冊の本展示	¥100,440	中高図書館 9月5日(金)～10月4日(土)
12月13日(土)	梅光学院下関開学100年記念 ビブリオバトル 14:00～15:30	¥94,230	図書館1階 グループ学習室 書道展 中高図書展示
○ その他の経費			
	資料収集旅費、資料(地図)購入等	¥41,536	
			(式典祝儀60件)合計¥755,000は寄付金として処理
	2015年度総合計	¥11,677,934	祝儀は除く
平成28年度			
○ 記念史経費			
	「梅光学院 下関100年史」	¥3,271,320	2017年3月末日発刊予定 瞬報社写真印刷(株)
			1300部作成 発送費は含まず。
	総合計	¥14,949,254	

※注記:2015年3月14日のシーモルホール 鎌田實講演会(¥1,191,780)は佐藤泰正基金で運営 参加約800名。



来年度同窓会総会おしらせ [2018 (平成30) 年度]

日時 2018 (平成 30) 年 5 月 12 日 (土)

受付 10:00 総 会 10:30 ~ 12:30

懇親会 13:00 ~ 15:00

場所 シーモールパレス (下関駅)

プログラム

I. 総会

2018 年度総会議事 *同窓会会費について (入会金・終身会費)

*その他の議事については、4 月 HP でお知らせします。

II. 懇親会

1. 講演「少子化と私学教育のあり方」 小田 豊 先生

(元 梅光女学院中・高教諭 短大講師)

聖徳大学児童学部教授

関西国際大学客員教授

広島大学幼年教育研究所客員研究員

2. コール梅光コーラス

会費 総会・懇親会 3,500 円 総会のみ 500 円

*原則、会誌に同封の振込用紙でお申し込みください。

当番幹事 高 41・短日 25・短英 26・大日英語 23

卒業時お願いした幹事さんのお名前は下記のとおりです。

2018 年度の準備をお願いしたいので、幹事会にご参集下さい。

高 41 大内こずえ・斎藤 容子・原川 智恵・芦刈 佳子・迫田 知子

道岡 知子・徳岡 順江・阿座上裕子・田中 陽子・植木 圭美

短日 25 塚本 弘美・菊田さおり・田代 悦子・石橋ひとみ

短英 26 山本 純江・有田 和子・小田由紀子・西野由紀子・佐藤 明子

大日 23 島本 敬子

大英 23 久保江厚子

大語 23 野口 紋

第一回 総会準備幹事会 10 月 13 日 (金) 14:00 ~

(於) 同窓会室 (大学キャンパス内)

連絡先 梅光学院同窓会

〒750-8511 下関市向洋町1-1-1 TEL.FAX 083-227-1111

(火・金 13:00~16:00のみ在室)

E-mail jimukyoku@baiko-dousoukai.jp

kaichou@baiko-dousoukai.jp

梅光先輩・女優・木暮実千代生誕百年記念

「オトン」上演について



木暮実千代さんは日本映画に輝いた大女優で、梅光の先輩でもあります。

今年は、その木暮さんの生誕百年に当たります。

それを記念し、木暮さんを顕彰をしている下関・“木暮実千代の会”では、木暮さんの生涯を描いた創作劇「オトン」を上演いたします。

オトンとは、お転婆、男勝りをいう彦島の方言ですが、木暮実千代は少女時代、そう呼ばれた通り、負けず嫌いの少女だったようです。そうしたオトンぶりは生涯変わらなかったとも言えます。

だからこそ、浮き沈みの激しい芸能の世界で消えることなく72歳の生涯を生き続けることができたわけですが、劇は、そうした木暮さんの少女時代から梅光時代、戦争さなかの満州での生きるか死ぬかの体験、戦後に再び女優として大スターになっていく中で、福祉活動にも力を注ぐ木暮実千代の姿を描きます。彼女が梅光で学んだものは人への愛でした。福祉活動はそこから生まれたようです。

この劇には、出演者、スタッフの公募もしました。すると、20人もの公募があり、市民劇の色彩も帯び、下関の文化創生ともなりました。

公演は、来年2018年3月18日の日曜日、下関生涯学習プラザ「海のホール」ですが、木暮さんの母校梅光学院の大学キャンパス内で、5月末から稽古を始めたところです。

木暮実千代の会

梅光出身の大女優・木暮実千代生誕百年記念

『朗読とトークの会』

日時：2017年10月28日(土)

神楽坂 まち飛びフェスタ

【1部】11:30～13:00

ランチタイム

【2部】13:00～14:30

朗読とトークの会

料金：5,000円(要予約)

2部のみ入場の場合 入場料1,000円

※13:00～入場可

会場：出版クラブ会館

【1部】1F ローズルーム

【2部】2F 宴会場

<http://www.shuppan-club.jp/>

〒162-0828 東京都新宿区袋町6

出演：江原千花(高66音卒業)

(女優で活動中 下関リーディングの会 代表) 他

ご予約・お問合せ先

梅光学院同窓会「木暮の会」梶間真寿美

TEL 080-2894-7475